

就職特集

就職戦線、

就職活動の戦略をたてよう



杉山 緑
教授 教育学部
広報戦略委員会委員

去る11月10日（水）、大会館において就職講演会と当日の講師・坂本直文氏（キャリアデザイン研究所代表取締役）を囲んでの懇談会が行われました。懇談会はQ&A方式で、参加者（学生）が事前を書いてきたエントリーシートを事例としてその書き方や関連する重要な事柄などについて具体的なアドバイスがありました。以下ではエントリーシートの書き方を中心に、懇談会で提供された幾つかのポイントを簡単に整理して紹介します。

目を止めてもらうために 一つかみ、ひっぱり、落ち

最初の一文で○か×かが決まる。エントリーの際に当然相手に

認めてもらえるように自分をアピールしなければならない。それには最初の一文・一言が肝心である。多数の志願者の中で目を引き、印象づけるフレーズ＝「つかみ」が必要だ。「○○コンテストで一番」とか「TOEICで300 UP」とか。そこで失敗するとその時点で没。続いて、読んでほしいことに「ひっぱり」込み、最後に自分が「何をしたい」と「落とす」。その際、相手が何を求めているのかを考えなければならない。PCについてであれば、PCの何について求められているのか。エントリーシートの個々の項目には全て意図がある。そのために企業分析が必要となる。

カテゴリーを多様に設定する —自己分析のために—

多様な角度から自分を見る。売り込みに成功するには、自分の良さや有能さを具体的にアピールしなければならない。だから自分の良さ・能力についてより細かく分析すること（自己分析）が必須だ。また、一つの事実は幾つかの視点・角度から捉えられることも考えよう。陸上競技が苦手でも「早くは走れないけど、走ることは好き」と。そしてそれらをもとに、相手企業が求めていることに即して自分を売り込む。ただし、自慢はダメ。まだまだ「勉強・向上しよう」という姿勢が大切。



こうして勝ち抜く

間口を広げる

文系学部出でも理系企業で活躍できる。たとえば、広告の仕事をやりたいとする。普通に考えると広告業界となるが、大きな企業であれば、たとえそれが理系企業であっても必ず広告部門がある。だから、会社を選ばなければ選択の幅は広がるのだ。また、地方企業にもこまめに目を配れば、知名度は低くとも一流企業は存在する。そこに活躍できる場が発見できることも考えておこう。OB・OG訪問も有効に活用する。



日ごろの生活から見直す

毎日がすでに勝負。どんなに良い売り込み文を書いても、中身が伴っていなければ面接ですぐに化けの皮は剥げる。質問には即答できるように種々の情報を集め準備することはもちろんだが、言葉使いや行動までも普段の生活の中で注意・心がけておくことが必要だ。電話の応対一つ取ってみても重要だ。「消しゴムカスを丁寧に手で集めて捨てる」という行動で認められたケースさえある。企業はその人の全てを見ている。

坂本直文氏プロフィール

ベストセラー書籍:「劇的内定術」、「劇的シリーズ」、「劇的自己PR」(ソフトバンクパブリッシング)の著者。大学時代から就職コンサルタントを志し、証券会社、広告代理店、新聞社にて各種ビジネススキルを学び面接官経験も豊富。就職講座の人気講師。ビジネス交渉術、広告のセオリー、心理学を駆使した具体的かつ実践的指導が特徴。対象はマスコミ、金融から公務員まで幅広く、人気企業を始め、地方有力企業、公務員、公益法人まで多数の内定者を輩出。全国の大学で年間100回以上講演。ダイヤモンドLEAD就職ナビにおける著者のコラム「マシンガンレクチャー」は全国の学生の人気コーナー。静岡県出身。立教大学理学部物理学科卒。資格:心理カウンセラー、EQコーナー。現在(有)キャリアデザイン研究所代表取締役社長。

E-mail:sakamoto4451@yahoo.co.jp

HP:www.gekiteki.net



就職に対する心得



平尾 元彦
助教授
学生支援センター

就職するということ

秋深まる季節になると、次年度の卒業・修了予定者にとって就職活動がはじまります。まずは、自分を知り仕事を知ることから。自己分析も重要ですし、業界・企業研究に取り組む必要があります。多くの企業がホームページで情報提供をしてくれますし、様々な自己分析ツールもあります。大いに活用して自分の将来の道を自分自身で選んでください。そんな季節になってきました。

学業から就業へと、学生の皆さんは山口大学を巣立ち、次のステージへと歩みを進めていきます。そこでのキーワードは“自立”です。精神的な自立もあるし、経済的な自立もある。職場の中では自分で考えて自分で行動する自立した社会人が求められます。そういう世界へと一歩進んでいくわけです。この季節を迎える学生にとって、就職活動は、これから自立して生きていくための職業を得る活動であるという、「覚悟」が必要となるのです。

就職活動を学ぶ

でも、全国の大学生がそうですし、先輩たちも同じ道を通して社会人になって活躍しています。ほんの少しの覚悟と意欲を持って就職活動に取り組みば、活動を通して学びながら、どんどん前に進むことができるでしょう。

就職活動では、もちろん皆さんは選ばれる存在です。エントリーシートによる選考や、筆記試験・面接など、会社は多くの志望者の中から入社してほしい人物を選びます。その一方で、皆さん自身も職業を選び、会社を選択するわけです。いろんな仕事の魅力や会社の経営方針など職業に関する様々な知識を持って選択をしてください。

知ること学ぶことの楽しみは、皆さんが大学に入って実感したことでしょう。就職活動も同じこと。会社を選ぶ過程で学ぶことはたくさんあります。視野を広げて幅広く学び自分にとってよい選択をしてほしいと思っています。

「OGの先輩はカッコよかった。あんな働き方をしたいと思った」「就職活動でたくさん友達ができました」なんて話も聞くことがあります。きっと様々な出会いがあるでしょう。活動のプロセスも楽しんでください。

就職相談の現場から

就職活動全般の心得は、就職情報サイトや書籍がありますので、これらをご活用ください。ここでは、私がこれまで山口大学で受けてきた就職相談の中から気付いたことを2点だけ書いてみたいと思います。

「資格を持ってないし、留学もしてません。アルバイトも短期しかやってません。大学時代に力をいれたことの欄に書くことがありません」。よくよく話を聞くと、ゼミでこんな課題に取り組んでいますというイキイキとした話ができます。「えっ、これ書いていいんですか」「いいですよ。だって大学時代に頑張ったことですよ」。との会話を何度もしました。大学で学んだことに自信を持ってください。また、自信が持てるようにしっかり学業に取り組んでください。学業は絶好のアピール題材です。

「面接で聞かれたことにはちゃんと答えられたのですが、ダメでした。どこがいけなかったのでしょうか」。この相談もよく受けます。面接は、会社と自分のコミュニケーションの場です。こちらが伝えたいことを事前にしっかり準備して、面接に臨むことを心がけてください。



学内OB・OG訪問(平成16年7月28日)

学内のチャンス大切に

皆さんにはぜひ知っておいてほしいことがあります。山口大学では就職講演会や各学部でのガイダンスなど学生の就職活動を支援するために様々な情報提供や行事を企画しています。各学部の掲示をご覧の上、参加してください。それから、本学の卒業生がときどき大学に来てくれているのをご存知でしょうか？「学内OB・OG訪問」と称する懇談会を随時開催し

ています。2月には会社の方をお招きして「学内業界・企業研究会」を開催する予定です。これらは社会人の方々とキャンパスで出会えるチャンスです。また、山大生による山大生のための就職活動応援Magazine「就活Information」や「就職活動交流会」など、学生たちが学びあう活動も山口大学では活発です。どうぞ積極的に参加して、充実した就職活動にお役立てください。

これからの就職活動において、

学ぶことはとても重要です。質問・相談は遠慮なくお越しください。

私たちは皆さんの就職活動を応援しています。

学内連絡先

TEL&FAX:

083-933-5145

E-mail:

hirao@yamaguchi-u.ac.jp



学内業界企業研究会



就職活動交流会

君の「なりたい!」を応援 (山口県若者就職支援センター)

ワンストップ サービスセンター誕生

11月の姫山祭に参加していましたので、目にした、耳にした方もいると思います。

若者就職支援センター(愛称Y Yジョブサロン)は平成16年4月J R新山口駅新幹線口前に誕生しました。ここでは、相談から情報提供、能力開発、職業紹介までの一連の支援をきめ細かに、ワンストップで提供しています。

利用者に好評です!

カウンセリング

1回90分程度、じっくり時間をかけて、就職活動に関することや能力開発など様々なことについて、専門家がアドバイスしています。

就職支援セミナー

履歴書作成や模擬面接などはもちろんのこと、内定者向けのセミナーも開催しています。

ジョブ・ブランチ・インキャンパス

山大を含む県内外の大学等14校をセンターのブランチ(支所)として、出前セミナー・カウンセリングを行っています。是非一度参加してみてください。

職業紹介

ヤング・ハローワークが併設されていますので、これは!と思う求人は、その場で紹介を受けられます。また、企業との出会いの場となる企業合同面接会を年間4回程度開催しています。

携帯へ最新情報配信中

モバイル会員には、携帯メールで最新の就職関連情報を配信しています。会員登録をして貴重な情報を逃さず有効に使ってください

い。

オンライン 就職支援ツール登場

Y Yジョブサロンのホームページには、履歴書や自己アピールの作成などを支援するオンライン就職支援ツールがあります。上手に使って就職活動に役立ててください。

センター利用状況(H16.10月末)

利用者	7,679人
うち登録者	3,094人
うち就職決定者	444人



重松
チーフキャリア
カウンセラー

「適職ってありますか?」と聞かれれば、自信を持って「No」です。適職は「有るとか無い」という事ではなく「生涯を掛けて自分だけの適職を創り上げていく」という事だと思います。就活は人生の適職への第一歩と理解してください。その過程で悩んだり不安になるのは当然です。その時は、迷わずキャリアカウンセラーに相談をしてみてください。悩み不安が消えるわけではないですが、人生のテーマとして一緒に考え取り組むことで応援したいと考えています。



水谷
能力開発支援
チーフアドバイザー

7千有余名の利用者の5人に1人は大学生と卒業しても就職しない(できない)未就職者の人達で、リピータとして定着し、各々の目的を持って来所し始めました。職業訓練選択の為に適性診断を受けたり、また、就職実践指導(履歴書・エントリーシート・面接)を受けたりスキルアップに懸命な姿が印象的です。コンサルティングを繰り返し、「就職できました!」と目を輝かせて報告に来る若者を見て今迄の苦労が吹き飛びます。「努力は人を裏切らない!」是非一緒に明るい陽だまりを探しましょう。



シンボルマーク

私たちに気軽に御相談してください!

キャリアカウンセラー、能力開発支援アドバイザー、職業相談員



武内



芳岡



春田



木村



村田



大塚和



三牧



久保田

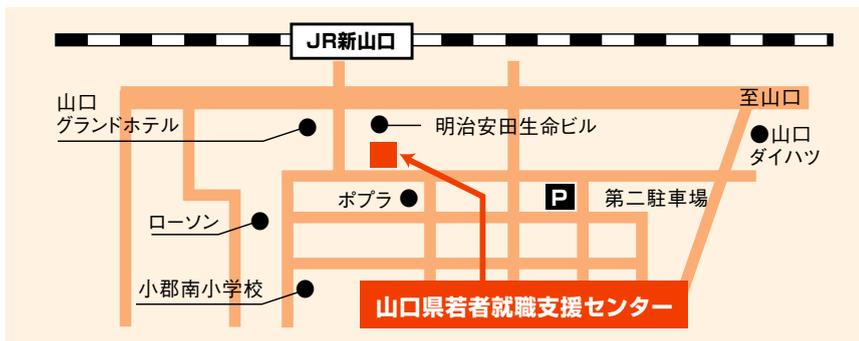


上野



廣谷

(敬称略)



お問い合わせ先

吉敷郡小郡町高砂町1-20

TEL:083-976-1145

FAX:083-973-1210

E-mail:

a15911@pref.yamaguchi.lg.jp

開館時間

平日 8:30~19:00

土曜日 8:30~17:00

日曜、祝日、年末年始は休館

ヤング・ハローワークの利用時間

平日 8:30~17:00



YYジョブサロン

<http://www.joby.jp>

山口就職電腦情報

<http://yamaguchi-dennou.com>

就職情報相談室



私の
就職活動

人文学部

いちねんかん



堀 由也

人文学部 4年

人文社会科学情報論コース
内定：山口県庁

進路を決定した時期

僕が進路を決定した時期は、2年生の秋くらいでした。一番のきっかけとなったのは社会学の研究室に所属したことです。社会学の授業の中で地域社会のことに関心を持つようになり、そこで活躍している行政の仕事に就きたいと思うようになりました。その後、公務員試験の勉強と平行して様々な地域活動に参加し、行政の仕事の大変さや面白さを直に体験し、ますます公務員の世界に魅かれていきました。公務員がどんな仕事をしているか知ることによって自分の目標をハッキリさせ、一心不乱に合格を目指すことが出来ました。

就職活動計画と実際

始めは、試験勉強を2年の後期の正月から始めるつもりでした。独学、もしくは公務員専門学校に通って合格を目指そうと思い、とりあえず『公務員を目指す人のための本』といったガイドブックの様な物を買って読むことにしました。その本をダラダラと読んでいるうちに、1月が行き、2月が逃げ、3月が去りました。3年になって、生協が主催する「公務員ガイダンス」に何気なく出席したと

ころ、「まさにこれしかない!!」と思いました。それからは、ひたすらに講座を信じ、言われたことをひたすらちゃんとこなしました。独学で走ることも、専門学校とのダブルスクールもせず、ただ生協の講座に通い続けました。今思えばそれで正解でした。生協の講座がどんなものかは学会館のブックセンターに行って生協の人に直接聞くのが一番早いので、ここでは書きません。一つ、僕なりの秘訣と言えば、勉強仲間を作ることです。試験勉強は最後には個人戦かもしれませんが、基本的には団体戦です。一緒に苦しみ分け合える仲間を見つけることが、辛い勉強生活を乗り切るためには必要だと思います。公務員試験勉強は想像の何倍も辛いもので、迷いくじけそうになる時が数多くあります。そんな時に仲間の存在は自分を支えてくれる大きな力になります。あと、僕が所属しているゼミの先生にも本当に感謝しています。その先生が僕のことをよく理解してくれ、支えてくれたからこそ1年間やり通すことが出来ました。

後輩へ一言

公務員を目指すなら、本当に生協

の講座を受けることをお勧めします。過去に蓄積されたノウハウを持っているし、しっかりとサポートしてくれます。公務員試験勉強で一番難しいのは、何をどのくらい勉強すればいいかを知ることです。異様に広い範囲にわたる出題科目と、それにもかかわらず要求される深い知識を手に入れるには、片っ端からという方法は絶対に通用しません。ポイントをしっかりと押さえた勉強をすることが大切なのです。生協の講座ならそれを教えてくれます。それから、生活が勉強一本になりがちですが、他に色々経験することも大切です。しっかりと勉強して、そのためには遊ぶ時は遊び、またボランティア活動などをするのもいいでしょう。とにかく、2次試験では人物試験があることを忘れずに、狭い人間にならないようにした方がいいと思います。学生でしか経験することができないことをちゃんと経験しておきましょう。「もう学生生活は十分経験した」と思えるくらいやれば最高だと思います。最後まで自分自身と花尾さん（生協の人）を信じて頑張ってください。めちゃくちゃしんどかったけど、それが終わった時はほんま最高の気分になれるんで!!



公務員講座

教育学部

教員採用試験までを振り返って



関本 歩

教育学部 4年

学校教育教員養成課程保健体育選修
 内定先：山口県小学校教諭

私は小学校のころから、「小学校の先生になりたい」と思い続けてきました。今はなかなか教員になることは難しく、考え直した方がよいと言われたこともありましたが、しかし、この思いを貫いたからこそ、夢を実現できたのだと思います。この場をお借りして、私の教員採用試験までの取り組みをお話させていただきます。

「今年教師になるんだ」という思いで立ち向かう

教員への道は狭き門で、採用人数も増加してきているとはいっても、依然倍率は二桁の県もあります。そのような状況ですので「3年越し」など、長い目で考えている人もいます。「一度だめだったからといってあきらめない」という気持は大切だと思います。しかし、私は「絶対に今年なってみせる」という思いで取り組みました。「来年がある」という考えでは来年にも合格はできないと考えたからです。この思いさえあれば合格するというわけではありませんが、この心構えが、試験までの私の背中を押していたと思います。

継続は力なり

私が本格的に勉強を始めたのは3年生の後期です。だから、3年生の方は、まだなにもやってないと言って、あきらめないでください。ただし、その頃からは、遊ぶことはもう捨て、毎日勉強するようにしていました。教育学部の就職支援部の方が学内模試などを毎週やってくさっていましたが、その模試はほとんど受けていません。毎日勉強することが、集中を切ることなく試験まで勉強する鍵だと思います。たまには息抜きも必要ですが・・・。

何事にも敏感に

教員採用試験の決め手は面接だと思いました。そこでは「このようなどきどう指導しますか」などの指導法も問われます。まだ大学生の私たちは教育実習しか経験がありません。経験がなく不利とも言われますが、逃げ腰にならないで自分の経験を最大限に生かせば大丈夫です。そのためには、普段から教育について敏感になっておくべきです。教育実習では、自分が教師として経験したこともそうですが、現場の先生方などが子どもと接するときや指導するときをよく観察したりして、自分の経験の中に盛り込むことを心がけました。家庭教師のアルバイトやボランティア活動、新聞や本などでも同じように、勉強になったことはすぐにメモをとるようにしていました。そして本番では、自分の精一杯の経験を生かして話すことができました。日ごろから教師の視点で物事に敏感になっておくことが大切だと思いました。

友達と協力して

面接や集団討論は声に出して初めて自分の考えを伝える難しさがわかります。私は周りの人たちと自主的に集まって面接や集団討論の練習などをしていました。本番の集団討論で尻込みすることなく自分の考えを述べることができたのは、みんなで練習したからです。実際に一緒に練習してきたたくさんの方が合格することができました。同じ目標を持つ人たちと勉強することで、お互いに刺激し合い、高め合うことができました。

以上、偉そうなことを言いましたが、何事にも「合格するんだ」という気持をもてば大丈夫だと思います。私もこれがゴールではなく、これからがまた新しいスタートです。自分の夢をあきらめずに頑張ってください。私も次の夢へ向かって頑張ります。

経済学部

私の就職活動



村上 美貴
経済学部 4年
経済学科

進路について考え始めた頃

大学3年生になった頃から、少しずつ就職活動を意識し始めました。3年生の6月から、大学の学内で催される就職説明会に参加して、就職活動に関する情報収集を始めました。漠然と「銀行の仕事がしたい」と思っていたのですが、自分は何がしたいのか、どんな仕事がいいのか、などよくわからなかったのが、最初のうちは、業界や会社を絞らずたくさん広く見ようと思い、視野を広げることに努めました。就職活動の前に、「社会で働くとはどういうことなのか？」について知りたいと思い、夏休みにインターンシップに参加しました。少しではありますが、実際に働くことイメージが湧いたことは、自分にとってプ

ラスになりました。

就職活動スタート

実際に企業にエントリーしたのは、11月中旬からでした。11月から、大学生協の『就職活動応援講座』を受講し、エントリーシートの書き方などの就職活動に必要なことを学びました。3年生の後期は、引き続き学内の就職説明会に参加したり、学内OB・OG訪問に参加したりして、情報収集とともに就職活動に対する気分を高めていました。いざ自己分析をやってみるとなかなか難しく、自分自身について深く考えたり、友人に自分の長所・短所を聞いたりして、自己分析をしました。また、自分の就きたい仕事について、以前より掘り下げて考えました。

就職活動ピーク

後期試験が終わった頃から、会社説明会や合同説明会にも積極的に参加し始めました。2月は主に学内の業界・企業研究会に行っていました。3月から4月にかけて、説明会やエントリーシートの提出、筆記試験・面接が続々とありました。ピーク時は、エントリーシートの締め切りに追われ、選考試験を連続して受けていました。自分としては「うまくいっ

た！」と思っていた面接で落ちてしまったり、試験がうまくいかなかったり、「本当に自分は就職できるのだろうか？」と落ち込んだこともありましたが、ここで諦めたいとは思わず、就職活動を続けました。その結果、自分の希望する企業に内定をいただくことができ、就職活動に終止符を打つことができました。

就職活動を振り返って

就職活動の日々は、いろいろ大変なこともありましたが、充実していたと思います。早めに行動に移すよう心がけたことと、諦めずに続けたことが満足のいく結果につながったのではないかと思います。落ち込んだり悩んだりしたときに、先生方や友人や家族に相談に乗ってもらったことで、諦めずに続けることができました。

就職活動は、今までの自分と将来やりたいことについて真剣に考えさせられる良い機会だったと思います。興味のある会社の説明会や試験には、できるだけ足を運んで実際に雰囲気を見てみるといいと思います。これから就職活動を始める皆さんも、楽しいことばかりではないと思いますが、しっかり気分転換しながら乗り切ってください。



理学部

私の就職体験記



高橋 由佳
理学部 4年
自然情報科学科

私が就職しようと思ったのは3年の夏。親は、進学したいなら進学してもいいとってくれたのですが、私は就職活動を始めることにしました。周りには進学したくても経済的な理由から就職せざるを得ない友人もいました。私は就職と進学という二つの選択肢があったにもかかわらず、就職を希望しました。その理由の一つは、早く自立したいという気持ちがあったからです。人はそれぞれ「自立」と聞いて思い浮かべるものが異なっているとは思いますが、私は内面的なものはもちろん、経済的に親から自立したいと強く思うようになったのです。

私は3年生の7月にR-CAP (RECRUIT Career Assessment Program) というものを受け、自己分析、志望職種の絞込みをしてもらいました。私が内定をいただいた企業とこのR-CAPが直接関係あったかどうかは分かりません。それでもなお早い時期から世の中にはどんな仕事があって、自分はこんな性格だから、きっとこんな仕事が自分に合うのではないかと検討しておくことは、就職活動を有利に進め、自分に合った職業に出会うために大切なことと思います。私の場合、R-CAPを受け、就職のことを考えるのは早

いほうであったとは思いますが、実際にリクナビ (リクルート・ナビゲーション) に登録したのは3年生の2月です。年末から合同説明会に参加してきたという周囲の話聞きつつ、私が初めて説明会に参加したのは4年生になってからだったような気がします。もう少し早く皆と一緒に説明会に参加していれば余裕を持って活動に励めたのではないかと少し後悔しています。

就職説明会に参加するとき大切なのは、ただ企業の方針や仕事のありかたを聞いて帰るのではなく、自分はそこの企業で働く気があるのかどうかをしっかりと考えることです。逆に言えば色々な職種の説明会に参加しなくても、自分の希望する仕事が決まっているのなら、その仕事に関係している説明会のみ参加すればいいのではないのでしょうか。一方で、気をつけなければいけないのは必ずしも自分が思い描いているような方針で企業は運営されていないということです。興味のある職種については積極的に説明会に参加し、疑問に思うことは徹底的に質問をして、自分の思い描く仕事像と実際の仕事内容や方針のギャップをなくして帰れるのが理想ですね。もし時間的に余裕のある人なら、全然興味のない企業の説明会に参加するのも面白いと思います。参加

することで意外に興味湧くこともありますから。自分の中で勝手に、仕事と自分の相性を決めてはいけません。

実際に働きたいと思う企業も決まり、そこの面接を受ける段階まで来たのなら、自己分析がしっかりできていることが大切です。そうでないと負け組になる確率は大きいと思います。自分の思ったことをはっきりと伝えることができる。これは簡単そうで実はすごく難しいんです。特に面接という初対面かつ短時間に自分は他よりいかに素敵かを、しかも堂々とアピールできなくてはいけないのですから。友達に自分の長所、短所を聞いておくと役に立つかもしれません。これも自己分析の一つの方法です。自分が人事部長なら、どんな人を社員に採りたいですか？人事部長が、採用したい、と思うようなアピールができると良いですね。私は面接で人と差をつけたと思っています(笑)。

私が一つ目の内定をいただいたのは4月の下旬、第1希望の企業から内定をいただいたのは6月上旬でした。就職するのは一つの企業です。内定の数が多くてもしかたありませんよね。自分が希望する企業から内定をもらってこそ勝ち組ですよ！皆さんが勝ち組になれることを願っています。ファイト！！



R-CAP団体 受検会

医学部

私の就職活動

池田 ちひろ

医学部 4年

保健学科検査技術科学専攻

私の場合、就職活動は、春休みや夏休みの長期休暇中に行った「病院研修（インターシップに準じた体験学習）から始まった」といっても過言ではありません。私は、低年次から希望して、地元の大学病院、総合病院及び一般病院など、さまざまな病院で研修を受けました。実際に医療の現場に触れ、その中で働いておられる臨床検査技師の方々の姿を見たり、また自分が就職を希望する病院の雰囲気を感じることができ、職業意識を具体的にしやすい機会となりました。

病院など医療機関の多くの採用試験では、事前の説明会（見学と面接）参加や、病院研修（通常1週間）での評価を重要視しているのも事実です。従って、研修時には意欲や礼儀などにもすごく気を遣いますし、また短い研修期間でも自分をアピールする場となり得

るのです。私は不安と緊張の中、研修期間を長期の面接だと思って取り組みました。私はこの経験から、何事にも意欲を持って取り組み、分からないことは必ず質問して、礼儀や感謝の気持ちを忘れない心が大切であることを学びました。

臨床検査技師の教育を受けると、病院や検査センターのみならず、バイオ関連の企業や製薬会社など、活躍できる場はとても幅広いのです。その中で、私は地元へ帰り直接患者さんのそばでチーム医療の一員として働きたいという気持ちが強かったので、病院への就職を希望しました。そこで、地域住民の方々と最も身近に関わることができるのではないかと考え、公務員試験を受け、市職員として市立病院で働く機会を得ることができました。受験で一番心配だったのは、一般常識、社会通念や、時事問題など、幅広い問題がでることでした。そのために、公務員試験問題集や新聞など、早め

に取りかかりました。早めの準備に勝るものはないと思います。

私も「就職なんてまだ先のこと」という気持ちを持っていましたが、早い時期からの研修によって自分の将来について明確な目標を持つことができました。「働く自分」や「どんな社会人になりたいか」ということへの具体的なイメージを持つために、インターシップはとても有効な手段であると思います。

最後に、就職は厳しいですが、1) まず自分のやりたいことを真剣に考え、2) そして自分としっかり向き合い自分の特性を知り、3) それを十分に発揮できる場所をたくさんの選択肢の中から見つけてください。そして、4) 必要とされている人材を知り、それに近づく努力を惜しまないことだと思います。また、内定までには、友人、教員、家族など、周囲の多くの方々の支えのお陰なので、その期待に応えるべく目標に向かってさらに飛躍したいと思います。



就職情報相談室

工学部

私の就職活動

浅野 真実

工学部 4年

感性デザイン工学科

年々厳しくなる就職戦線。私は、建築業界の技術職を目指して就職活動をしました。精力的な行動力の反面、活動内容はかなり理想とかけ離れているので、これから就職活動を始める皆さんには、私よりもっと真剣に活動した方のお話の方が役に立つと思います。代わりにここでは“私なりの”自論的なお勧めを紹介したいと思います。息抜きとして読んで頂ければ光栄です。

自己分析

自己分析（長所・短所含む）は、友達とお互いに指摘し合うことをお勧めします。自分でじっくり考えるのも大切ですが、それ以上に友達は、自分が全く自覚していなかった多くの良い点・悪い点に気付いていてそれを評価してくれます。

自己PR

自己PRは、何も履歴書の文章や、面接時の説明だけで伝えるものではないと思います。具体例を盛り込んだ説明よりずっと簡単で、かつ、ダイレクトに相手に伝わる方法。それは行動で示すことです。私の場合、“元気の良さ”を、声の大きさ、入室時のドアのノック音、歩き方といった動作の一つ一つで表現しました。特に、面接での第一声はとても重要です。元気の良さは働く上での全ての基本となる最も大切なことな

ので、第一声の元気がいいと、「君、元気いいね。」と後々まで評価はついて回ります。

しかし、最初の頃はこんな行動が出来るわけもなく、不慣れと緊張で声が震える程でした。元々私はあがり性で人前で話すのが苦手です。改まった場なら尚更で、場数を踏むことで徐々に慣れるようにしました。最初のうちは失敗が続くかもしれませんが、落ち込まないで下さい。前回の失敗から反省点を見つけ、出来る事から一つずつ克服していけば、いつかは反省点が限りなくゼロになるわけですから。

到着時間

説明会や面接は開始十分～十五分前には会場に着いておくようにと、よく目にします。「それなら」と、私は受付開始の三十分～十分前には着くようにしていました。早過ぎると言われますが、一石二鳥どころか、何鳥も落とすので時間に余裕の持てる方にはお勧めします。まず、①絶対に遅刻しません。万が一電車を一本乗り遅れてしまっても、大抵次の便で間に合います。②会場についてから十分時間があるので、面接での話すポイント等の再確認ができます。③社員の方の印象に強く残ります。一番乗りの確率が高く、誠意を認めてもらえます。④人事の方が話をしてくれたり、企業によっては社内を案内してくれたりします。これが一番大きな利点です。直に話が聞けたり社内を見学できるのですから、これほどのメリットはないと思います。ただ、ホテ

ルの会場等を借りての場合は、早く着き過ぎると反って迷惑になってしまうこともあるので、そこは臨機応変に。

ちょっとした楽しみ

私の就職活動は楽しかったと思います。逆に、楽しまなければ続かないと思います。私のお勧めは、半旅行気分で活動することです。少し早めに着いて周辺を散歩したり、空き時間で有名な建築物を見に行ったり、その地の美味しいものを食べたり。連日始発の鈍行列車で出かけ、終電を乗り継いで帰っていたので、海面から昇る朝日を見る日もあれば、山に沈む夕日を見る日もありました。折角遠出するのですから、こういった普段では体験出来ない“ちょっとした楽しみ”を用意してみるといいと思います。受験企業数に比例して不採用通知も多い中、そこまで落ち込まず上手く気分転換して、就職活動自体を楽しむことが出来たのも、この楽しみがあったからだと思います。

就職活動における気持の切替はとても重要です。落ち込んでいる学生には暗い雰囲気が、反対に楽しんでいる学生には明るい雰囲気が漂っているのが自然と分かります。失敗に拘り過ぎず、それを上手く利用して楽しんでこそ、いい活動ができると私は思っています。

最後に、これから就職活動を始める皆さん、厳しい就職戦線だからこそ、どんな形であれその中に楽しみを見つけて活動して下さい。

農学部

就職するにあたって

山口 裕子

農学部 4年
生物資源環境科学科

私が山大農学部に入學して早くも4年が過ぎました。就職戦線が活発になっていく中、私も就職活動を開始したのですが、就職するにあたり私には企業に対して譲れない条件がありました。それは、大学で学んだ知識をフルに活かすことができる職種に就くということです。

しかし、自分の勉強したことを活かせる職種に就くということがかなり難しくなっているということは以前から知人や友人に聞いていました。また、就職情報誌を見たり就職系サイトなどに登録してみるとたしかに自分が働きたい職種というものが企業全体のほんの

一握りであるということが分かりました。さらにその希望職種への就職活動もうまくはかどらず、このままで本当に就職することができののだろうかという焦りに悩む日々が続きました。

そんな私が内定を頂いたのは7月から8月にかけて、内定者としては少し遅い方に入るのはないでしょうか。

興味がありエントリーしていた企業が追加募集をするという情報を知り、すぐに採用担当の方と連絡をとり選考に加えて頂きました。選考期間中は追加募集ということもありハイペースで選考が行われ、また低次的選考での本社重役面接など精神的にも肉体的にも疲弊したまま面接に突入してしまいました。しかし「どうしてその職種に就きたいのか」「自分の持

っている知識・能力をどういう風に活かしていきたいのか」ということを熱心に話していくうちに疲れていることなど忘れて夢中になって話していました。結果、内定を頂いたのですが、それが「私がこの仕事をやりたい!」ということを知って頂いた証拠ならこんなに嬉しいことはないと思います。

私の就職活動はほぼ終わりを迎えた訳ですが、大学内の様子や情報誌を見るともう次の年の就職活動が始まっています。これから就職戦線に身をおく山大学生の人に私が言いたいのは、自分のやりたい事を諦めずに頑張っていけばきっと誰かが認めてくれるはず・・・ということです。活動を続けていく上で辛いことも多いと思いますが、諦めずに夢をつかんでください。



講義「キャリアデザイン」

各学部の就職支援年間スケジュール

人文学部

月 日	場 所	内 容	講師・説明者	参加人数
5月19日	人文学部大講義室	●3年生対象 キャリアガイダンス	学生支援センター 平尾助教授	3年生 100名
11月	人文学部大講義室	●就職ハンドブックの 活用について	学生支援センター 平尾助教授	3年生 100名
11月	人文学部大講義室	●就職講演会 ●4年生の先輩による就職 活動体験報告会 ●OB・OGによる懇談会 を予定	4年生の内定者 4名程度	3年生 120名

教育学部

月 日	進 路		
	教員採用試験関係	公務員試験関係	企業採用試験関係
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●時事通信第2回公開模試 準拠教採模試4月3日 ○就職講演会(14日(水)、 教員試験制度) ●前期・教採試験学内模 試(教職教養・論作文(4 月21日から毎週水)、小学 校全科(4月22日から毎週 木)) ☆教採試験願書取り寄せ 	<ul style="list-style-type: none"> ○就職講演会(14日(水)、 公務員試験制度) ☆国家Ⅰ・Ⅱ種他願書受付 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●前期教採試験学内模試 (教職教養・論作文・小学 校全科) ☆教採試験願書受付開始 ●時事通信第3回公開模試 準拠教採模試5月22日(土) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆国家Ⅰ種一次試験・発表 ☆地方上級願書受付開始 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●前期・教採試験学内模試 (教職教養・論作文・小学 校全科) 	<ul style="list-style-type: none"> ※公務員試験対策講座 開講 	

6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 教採試験直前セミナー(一次対策) ● 職業適性検査(R-CAP等) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 国家Ⅰ種二次試験・最終合格者発表 ☆ 国家Ⅱ種一次試験 ☆ 各種国家公務員一次試験 ☆ 地方上級一次試験 ● 職業適性検査(R-CAP等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職業適性検査(R-CAP等)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 教採試験受験者を励ます会 ● 前期・教採試験学内模試(教職教養・論作文・小学校全科) ● 教採試験直前セミナー(一次対策) ☆ 公立学校教員採用一次試験 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 各種国家公務員一次発表 ☆ 国家Ⅱ種一次発表 ☆ 各種国家公務員二次試験 ☆ 地方上級二次試験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職講演会(14日、就職準備)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 公立学校教員採用一次発表 ● 教採試験直前セミナー(二次対策:面接等) ☆ 公立学校教員採用二次試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 国家Ⅱ種二次試験 	
9月		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 国家Ⅱ種最終合格者発表 ☆ 各種国家公務員最終合格者発表 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 公立学校教員合格者発表(名簿登載) ● 4年生就職状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4年生就職状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職講演会(13日、心構え) ○ 就職講演会(27日、女子学生の就職活動) ● 4年生就職状況調査
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員採用試験対策講座(学生支援センター主催・一部教育学部就職支援部共催) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職講演会(24日、人事院・国家機関による説明会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職講演会(10日、エントリーシート等作成法他) ○ 就職講演会(17日、就職試験を勝ち抜く新聞の読み方) ● 3年生第一回就職講演会・就職活動体験報告会(24日) ● 企業訪問開始

12月	<ul style="list-style-type: none"> ●後期・教採試験学内模試(2日～) ●3年線第1回就職講演会・就職活動体験報告会(8日) ●臨時採用教員申込(各人が教育事務所へ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●3年生第1回就職講演会・就職活動体験報告会(15日) 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●後期・教採試験学内模試 ●臨時採用教員申込(各人が教育事務所へ) 		<ul style="list-style-type: none"> ●企業就職対策:模擬面接 西日本企業への学部リーフレット送付
2月	<ul style="list-style-type: none"> ●後期・教採試験学内模試 ●教育事務所訪問(臨採依頼) 		<ul style="list-style-type: none"> ○就職講演会(10日、面接留意点・模擬面接)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●後期・教採試験学内模試 ●教職・小学全科ビデオ講座 		

(注) ○:山口大学学生支援センター関係 ●:教育学部就職委員会関係 ☆:就職試験等の動向
※:その他

この他、企業や各県教委等の要請に応じて、説明会を開催しています。

経済学部

基本方針

- 1.前期は4年生のフォローアップとケアに注力
- 2.後期は3年生の就職活動への本格的支援推進
(但し、■・・・■は全学・学生支援センター就職支援部主催のもの)

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生保護者懇談会(就職状況説明) ・ 新入生・2年生・3年生オリエンテーション(就職関係説明) ・ 4年生「就職状況アンケート」実施 ・ 4年生「進路希望等の再確認」実施 ■4/14・公務員及び教員試験制度の説明と対策■
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生「第1回 就職ガイダンス」実施 ・ 「保護者への就職通信Ⅰ(2年生・3年生・4年生保護者)」
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生「第2回 就職ガイダンス」実施 ・ 3年生「適職診断テスト(R-CAP)」団体受験 ・ 「保護者との就職問題懇談会(2年生・3年生・4年生保護者)」 ・ 4年生の内定状況等の確認とフォローアップ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生の内定状況等の確認とフォローアップ ■7/14・今しなければならない就職準備■
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公務員試験模擬面接 ・ インターンシップ ・ 企業訪問・人事訪問 (春採用実績のフォローと意見交換等)

9月	・他大学の就職支援活動の訪問調査
10月	・3年生「進路希望調査」実施 ・就職活動体験交流会(3年生向け) ・3年生「第3回 就職ガイダンス」 ・「保護者への就職通信Ⅱ(1年・2年・3年・4年生各保護者)」 ■10/13・就職活動全般の心構え■ ■10/27・女子学生の就職活動について■
11月	・入門講座(金融・流通・メーカー・公務員関連/2～3年生) ・3年生「第4回 就職ガイダンス」 ■11/10・企業の採用の展望とエントリーシート、自己PR及び志望動機の作成方法について/「就職Q&A勉強会」■ ■11/17・就職試験を勝ち抜く新聞の読み方■ ■11/24・人事院及び国家機関による業務説明会■
12月	・3年生「第5回 就職ガイダンス」
1月	・3年生向け個別相談 ・4年生の内定状況等の最終確認とフォローアップ
2月	・3年生向け個別相談 ・2年生「第1回 就職ガイダンス」 ■2/2・面接時における留意点と模擬面接■
3月	・3年生向け個別相談

理学部

月 日	場 所	内 容	講師・説明者	参加人数
4月8日	14番教室	新入生保護者就職説明会	学生委員会委員	保護者 200名
4月10日	理学部	2～4年生就職状況説明会	就職支援委員会	2～4年生 400名
10月	各学科	3年生への就職委員による各講座の就職ガイダンス	各講座就職委員	3年生 200名
	各学科	卒業生による業界講演会	卒業生	

医学部 保健学科

月 日	対 象	行 事	内 容
2月	3年生	プレガイダンス	1) 就職とは? 2) 就職実績状況など
3月	3年生	個人面談-1(進路相談)	

4月	4年生	第1回ガイダンス	1) 求職票への記入と調査 2) 自己分析について
(病院訪問:適宜)			
5月	4年生	個人面談-2(受験準備)	
6月	4年生	第2回ガイダンス	1) 夏期見学研修の説明、模擬面接 2) ニーズ分析:医療施設、企業など
8月	4年生	個人面談-3(受験準備)	
9月	4年生	第3回ガイダンス	1) 受験対策(面接・適性試験など)
10月	4年生	第4回ガイダンス	1) 講演会(外部講師など)
翌年			
1月	2~3年生	第5回ガイダンス	1) 就職内定者による体験 2) 書類作成について

工学部

月 日	行 事
6月3日(木)	就職ガイダンス
10月21日(木)	就職ガイダンス
11月4日(木)	就職適職診断(R-CAP)
11月25日(木)	就職セミナー(面接・エントリー等)
12月	就職セミナー(面接・エントリー等)
1月	就職セミナー(面接・エントリー等)

農学部

月 日	時 間	場 所	内 容
8月6日(金)	14時30分~16時	農学部7番教室	第1回就職支援セミナー
11月2日(火)	15時~17時	農学部大講義室	第2回就職支援セミナー

TOPICS

山口大学米日財団プロジェクト 「アメリカ再発見」の各種副教材の完成

■ 中村 幸士郎 教授 教育学部 同プロジェクト代表



2001年5月から3年余りに亘り展開してきた、山口大学米日財団プロジェクト「アメリカ再発見—家庭、学校、地域社会を中心に—」の全計画が、本年7月無事終了しました。予想以上に立派な成果であると、財団本部からお褒めの言葉をいただきました。その概要をお知らせし、副教材の活用をご案内致します。

たきました。その概要をお知らせし、副教材の活用をご案内致します。

〔目的と任務〕

本プロジェクトの目的は、アメリカ合衆国の社会や文化を、小中高の教育現場の先生方が現地で体験的に学習することと、日本の児童・生徒にわかりやすく紹介し教育できる副教材を作成することでした。

この目的を達成するために、適切なテーマを設定し、参加教員を募りグループを編成し、事前研修・現地研修・事後研修を実施し、更に副教材を作成し、教育現場で実践活動を行うことを任務としてきました。

〔テーマ〕

「アメリカ再発見—家庭、学校、地域社会を中心に—」

高度科学技術や経済活動の飛躍の発展により、急激に変化し多様化したアメリカ社会の実情を直接見聞すること。また、アメリカの若さとエネルギーの源について、児童生徒の生活の場であり、一国の社会や文化の基盤で

ある、家庭・学校・地域社会を中心に、古き良き伝統を受け継ぎアメリカンドリームを育み子供たちに夢を与え続ける素地がどのように残っているかを調査すること。これらを通してアメリカを再発見し再認識すること。



〔参加教員とグループ編成等〕

山口県の小中高大の教員47名とテレビ放送局技術者1名の計48名。

4グループの編成・現地研修地域・地域的テーマ

Aグループ:13名、アメリカ東海岸の中部と南部、
経済・教育・ボランティア

Bグループ:8名、西海岸、教育・移民・娯楽産業

Cグループ:13名、中部、自動車産業・農業・アーミッシュの生活と価値観

Dグループ:13名、東海岸の北部、歴史・国際政治・
教育・文化

TOPICS

〔事業内容の概要〕

初年度:日本の児童生徒のアメリカに関する意識調査(アンケート)、事前研修(講演7つと現地研修の準備)、Aグループの現地調査8月2週間(ホームステイ5泊)、事後研修(帰国報告会と年次報告書・決算報告書の作成)、第2年度の事業計画書と予算書の作成と申請

第2年度:事前研修(講演5)、BグループとCグループの現地研修2週間(ホームステイ含む)、事後研修(帰国報告会、年次報告書・決算報告書の作成)、第3年度の事業計画書と予算書の作成と申請

第3年度:事前研修(講演5)、Dグループの現地研修2週間(ホームステイ3泊)、事後研修(帰国報告会と年次報告書作成)、ホームページ・CD・DVD・『アメリカ再発見—学習資料集』の作成、プロジェクト成果発表会の実施、事業実施報告書と決算報告書の作成



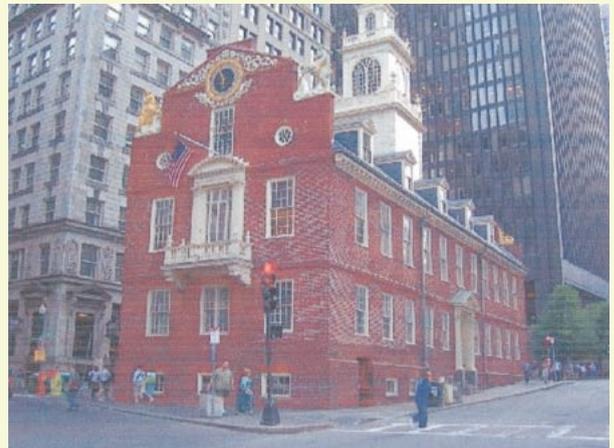
年次報告書



ビデオ、CD-ROM、学習資料集



グラウンド・ゼロ (ニューヨーク)
9.11同時多発テロで崩壊した世界貿易センタービル跡地



オールド・ステート・ハウス (ボストン)
米国独立宣言書が、1776年7月18日、この建物の
21階バルコニーで読み上げられました。

〔成果〕

3年間(企画と最終取り纏めを入れると5年間)のプロジェクト実施により、アメリカの社会と文化を紹介する副教材7点が下記の通り完成しました。(上記の写真)

『年次報告書』3年度分計3冊、各1,000部発行

『アメリカ再発見—学習資料集』1,500部発行

『アメリカ再発見CD-ROM写真資料集』1,500部制作

『アメリカ再発見DVDビデオ映像集』1,500部制作

『アメリカ再発見ホームページ』の作成と公開

http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/beinichi/US_J.html

TOPICS

〔副教材の配布先〕

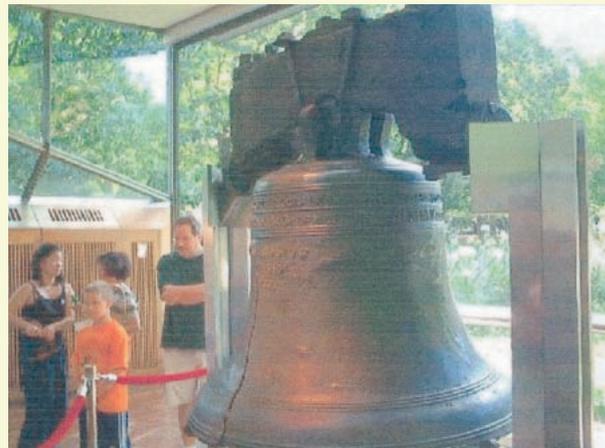
これらの資料は、山口県の公立小中高のすべての学校や教育委員会に、また、すべての都道府県の教育委員会やすべての教育学部等に配布済みです。若干の残部がありますので、ご希望の方はご連絡ください。教育現場その他での活用をよろしくお願いいたします。

最後に、本プロジェクトの計画と実施に当たり、惜しみないご指導とご協力をいただいた山口県教育委員会と山口大学教育学部、4000万円余の資金援助とご指導をいただいた米日財団、その他多くの関係諸氏のご支援とご協力に対し、本プロジェクト実施委員会を代表し、心より深く感謝し御礼申し上げます。

学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5424

Email:koshiro@yamaguchi-u.ac.jp



自由の鐘（フィラデルフィア）
米国独立宣言の際にうち鳴らされた鐘



家庭・学校・地域社会を通じて アメリカを見直す

アメリカ社会をより深く理解するため、小中高大の教員47名が現地研修に参加しました。3年間にわたったプロジェクトの成果をアメリカでの現地研修で得た再発見や驚きを中心にまとめ、3冊の『年次報告書』、ハンドブック『アメリカ再発見－学習資料集』、CD(文書・写真・写真説明)、DVD(ビデオ映像)、ホームページを制作しましたので、ご活用ください。

ホームページには、DVD(ビデオ映像)を除くすべてが掲載されています。

2004 日本留学フェア (韓国)

■ 今井 新悟 助教授 国際センター

留学フェア (韓国) に山口大学が初参加

2004日本留学フェアが、9月10日・12日の両日にわたって韓国のプサン(ホテルロッテプサン)とソウル(セントラルシティ)で開催されました。これは、日本留学を志す韓国の学生が、希望に沿った実りある留学を実現できるようにするために、留学希望者や進学指導者を対象として、独立行政法人日本学生支援機構などが主催して実施しているものです。日本からは山口大学を含め、72大学、専門学校、日本語学校など計146校が各ブースで、日本での留学・就学をめざす若者や保護者の質問に答えました。両会場に合わせて約4千人が来場しました。韓国での日本留学フェアは大学が参加するようになってから今年で4回目を迎えますが、山口大学は今回が初めての参加で、石橋公夫留学生課長、新徳法正入試課入学試験係長、筆者が説明にあたりました。



(開会式：後ろに「2004日本留学博覧会」という文字が見える)

開会式で、後援の在釜山日本国総領事館および在大韓民国日本大使館などから祝辞を受けた後、ブースごとに工夫をこらしたプレゼンテーションや留学相談に応じたりして会場は活況を呈していました。高校1年生から博士

課程希望者まで、留学希望者は熱心にブースでの説明に耳を傾けていました。



留学希望者からの質問

山口大学のブースに寄せられた主な質問は以下の通りです。山口大学にはどんな学部があるか。入学資格・入試科目・合格ラインはどのようになっているか。授業料等の大学に支払う経費はいくらぐらいか。住居にかかる経費や生活費はいくらぐらいか。アルバイトは見つけられるか。短大卒だけの資格だが編入学は可能か。学部在籍中だが編入学は可能か。軍に所属しており、軍から奨学金を受けて留学できるが、受け入れてくれるか。帰国子女枠で受験する際の条件はどのようになっているか。(韓国内の)大検の資格が出願資格として認められるか。

TOPICS

山口大学をいかにアピールするか

今回フェアに参加して、以下のような点に気づきました。多数のブースがあるなかで、目立たせる工夫が必要です。ビデオ、パソコン、プロジェクターなどを活用した、魅力的なプレゼンテーションが印象的。韓国では「英語力不足は就職に不利」との意識が定着しており、英語の教育にも関心が高いので、TOEICを中心とした英語教育でGPに選ばれた点をアピールすべき。「韓国から最も近い大学」というイメージ作りが効果的。英語圏へ留学を目指している成績優秀者の目を本学へ向けさせる施策が必要。現地で受験できる日本留学試験を活用して、渡日前に合否

を判定・通知するシステムを確立する必要性。成績優秀者の授業料免除など他大学と差別化できる制度の設計・実施。

今回の経験をもとに、山口大学の魅力を効果的に伝えられる戦略をたて、優秀な留学生を大いに山口大学に歓迎したいと考えています。各学部・部署のご協力・応援をお願いします。

学内連絡先

国際センター TEL:083-933-5982

E-mail: imai2002@yamaguchi-u.ac.jp



山口大学のブース



TOPICS

国際環境協力シンポジウム —東アジアの持続的発展を目指して—を開催

■ 岡崎 房述 国際企画課長

平成16年10月8日(金)、9日(土)の2日間にわたり、本学大学教育機構主催による国際環境協力シンポジウムを宇部全日空ホテルにおいて開催しましたので、報告します。



趣 旨

環境問題が最重要課題である現在、地球規模の視野を持ち、難問解決を提示することが大学人にも求められています。山口大学は、東アジアを中心とした国際交流、国際貢献を中期目標とし、幅広い分野の研究者が共同して環境問題に関する研究プロジェクトを立ち上げ、組織的な国際環境協力を促進する活動を始めています。

そこで、積極的に国際社会に貢献するため、地域社会(産・官・学・民)が一体となり、国際環境協力に参画できる体制を整える契機とするため、シンポジウムを開催しました。

概 要

環境省盛山氏の、京都議定書を9月30日にロシアが批

准したことにより世界の環境問題が大きく動き出したというタイムリーな話題に始まり、環境を縦糸に夢を紡ぐ信念がにじみでていた大迫氏は日本と東アジアを結ぶため地域社会の重要性を強調、森氏は勤務地である中国事情を例に協力事業間の連携の必要性を唱えられました。また、藤田宇部市長自ら講壇に立ち、環境保全と国際環境協力について熱弁を振るわれました。

平成16年4月に発足した環境ネットワークのメンバーである山口大学教員や梅光学院大学馮先生の講演のほか、大学間協定校である山東大学、韓国外国語大学校、北京師範大学からも講師を招き、東アジアで生じている個々の問題も紹介され、今後重要となる地域社会での活動を宇部環境国際協力協会が紹介、シンポジウムに幅と深みを与えてくれました。



別室で行われたポスター発表では山口大学のほか6企業、2市、1協会が自らの関与する環境問題改善の活動について発表を行い、特に8日の講演終了後の17時前後は参加者であふれ、意見交換を行っていました。

2日間で約400名の参加者がありましたが、卒業後は自

T O P I C S

国で活躍する留学生にも環境問題に感心をもってほしいという意図で、国際センターが働きかけ、延べ70名以上の留学生が参加しました。

今回のシンポジウムは準備段階から山口県内の産、官、学、民が連携して行いましたが、講演内容からもこうした連携の重要性を確信することが出来ました。この度、国際協力へ新たな一步を踏み出すことが出来ました。今後も力強く歩みを進めていきたいものです。



シンポジウム日程

10月8日

挨拶 河村前文部科学大臣(代読)／二井山口県知事(代読)／加藤山口大学長

講演

盛山正仁(環境省地球環境局総務課長)

「東アジアを中心とした地球環境問題への取組みについて」

大迫勝博(グローバルシステムジャパン代表)

「国際環境協力構想要約」

森 尚樹(JICA専門家) 「日中環境協力パートナーシップ」

丸本卓哉(山口大学副学長) 「日中協力に基づく環境修復プロジェクト」

藤田忠夫(宇部市長) 「宇部方式による環境保全対策と国際環境協力」

浮田正夫(山口大学) 「樫野川の豊かな流域づくり」

顧 衛(北京師範大学) 「海氷を水資源として利用する新構想と可能性」

早川誠而(山口大学) 「黄砂の発生および移動について」

10月9日

挨拶 藤田宇部市長／合志山口市長

講演

高 燦柱(山東大学) 「Education and Training for Sustainable Development」

Gangwoong Lee(韓国外国語大学校) 「Atmospheric Nitrogen and Acidic Depositions on Lake Sihwa, South Korea」

陳 禮俊(山口大学) 「中国における都市近郊農村の経済発展と生活環境」

中西 弘(宇部環境国際協力協会) 「宇部環境国際協力協会の活動について」

馮 戦兵(梅光学院大学) 「日中交流について」

ポスター発表

宇部興産 宇部環境国際協力協会 協和エンジニアリング セントラル硝子

多機能フィルター 中国電力 日特建設 宇部市 山口市 山口大学

シンポジウム組織委員長 大学教育機構長 丸本卓哉

シンポジウム実行委員長 エクステンションセンター長 村田秀一

学内連絡先

TEL:083-933-5026

E-mail:okazakif@yamaguchi-u.ac.jp

TOPICS

ハワイ大学マノア校 山口大学英会話研修(上級・海外)に参加して

■ 山本 亜希子 財務部契約課(現総務部人事課 人事総務係)

平成16年8月末から約3週間の日程でハワイ大学マノア校での英会話研修に参加して、たいへん有意義な時間を過ごし、そこで様々な貴重な経験を得ることができました。

今回の英会話研修は、同校の1部門であるアウトリーチカレッジで企画されている「スペシャルイングリッシュプログラム」に参加するものでした。本プログラムは個人ではなくグループに対し用意されている英語研修プログラムで、英会話とアメリカ文化の習得を目指すものでした。

私は山口大学学生とともに本プログラムに参加しました。

◆充実したクラスプログラム

クラスは1日4時間行われ、内容はとても充実したものでした。クラス内あるいはクラス外でのインタビューや様々なトピックに関するディスカッションがメインで、それらを効率的に行うために事前準備や事後の報告を毎日行いました。こうしたプログラムを毎日繰り返すことにより、英会話能力(語学だけでなく、会話の運び方や英語で会話することへの積極性)が次第に身に付いていったように感じました。

また、クラス後は授業内で交流したハワイ大学学生と話し込んだりして、キャンパスライフは日を増すごとに充実したものになっていきました。

◆魅力満点のハワイ文化

クラスではアメリカ文化の紹介がいくつか行われ、特にハワイ文化・歴史についての講義は私にとってたいへん興味深いものでした。講義はクイズ形式、図解、資料解説、発表等多様な方法で構成されていました。

私は今回のハワイ研修に際し、事前に本を読むなどしてハワイの歴史・文化について多少の知識を得ていたつもりでしたが、ハワイ大学での講義から得る知識はそれよりはるかに幅広く、また、奥深いものでした。私はクラス後に講師に延長講義をお願いするなどして更にハワイ文化に関する興味を深めていきました。

◆ハワイ人暮らし

ハワイでは最大の繁華街ワイキキにあるコンドミニウムに滞在していたのでなんら不便なく生活することができました。大学までは距離にして約3キロ、バスでは約15分の場所だったので、不便なくというよりもむしろ「快適」な生活だったといえるかもしれません。

コンドミニウムのフロントスタッフはとてもフレンドリーで、しばしば彼らとその日の報告やオアフ等の情報などについて話し込みました。ホテルスタッフに限らず私がハワイで出会った人達は皆フレンドリーで、バス停、バス車中、お店、ビーチなどどこでも話し掛けられることが多くありました。見知らぬ人とも会話を楽しむことがハワイ人の気質なのかと感じられるほどでした。

◆ハワイ大学課外活動

ハワイ大学にはレジャープログラムとして数十の課外アクティビティが用意されており、学生は希望すればそれらに参加することができます。プログラムは文科系と運動系に大別され、私は文科系ではフラレッスン、運動系ではボディボードレッスンに参加しました。

フラレッスンは当然ですが歌の意味や振り付けの指導など全て英語だったので最初は説明を聞き取れず戸惑う

T O P I C S

ことが多々ありました。さらに私を悩ませたのはハワイ語の理解で、英語で解説されるハワイ語の振り付けを理解して踊るといのはたいへんハードなものでした。しかし、何度も質問し、説明を受けることでなんとか1回のレッスン中に一つの踊りをマスターすることができるようになりました。

ボディボードは気軽な気持ちで参加したのですが、あまりの厳しさに終わる頃にはくたくたになっていました。ハワイの海は山口の海と違い波がたいへん荒く、塩分も濃く感じました。参加者は皆初心者だったので、荒波の中互いに必死に助け合いながらなんとかこなしていきました。必死の状況では自分の持っている英語能力でコミュニケーションすること以外頼るものがなく、逃げ道のない状況の中でのやりとりは、英語を学ぶことの重要性を文字どおり身をもって体験するものになりました。



クラスで行われたフラレッスン
前列右から2人目はクムフラ先生（フラの先生）で
右端は楽器のイプです



卒業パーティーで
左が講師のDerek、
中央は学生の嘉藤さん
右が筆者です

◆ハワイ研修を振り返って

以上、本研修の大まかな内容とそこで私が感じたことを綴ってきましたが、本研修は出国前のホームステイコーディネーターや滞在中のホテルとの交渉、そして帰国後も続く現地知り合った友人との交流など、単にハワイ大学での英語研修にとどまらず、長期に渡ってたくさんの人々と交流が持てるものとなりました。

また、3週間の滞在中ハワイで感じたことは、私の人生の価値観を改めて考えさせられるきっかけにもなりました。本研修から得たものを生かし、今後もこの経験が私の職業生活へ十分に発揮されること、またそうなるよう努めることを決意して、本研修報告の締めくくりといたします。

◆終わりに

最後になりましたが、この度の研修では本当に得難い経験を得ることができました。本研修に参加することに際しお世話になったたくさんの方々に、ご協力とご支援を頂きましたことを感謝申し上げます。



クラスでオアフ島1周ツアーに行った時の写真
サーフィンのメッカ、ノースショアです

TOPICS

異文化交流講演会

日本とドイツ～日独学术交流の回顧と展望～

■ 蒲田 奈菜 人文学部言語文化学科3年



2004年5月21日、山口大学学生会館2階会議室にて、ウルリヒ・リンス氏による講演会「日本とドイツ～日独学术交流の回顧と展望～」が開かれました。リンス氏はドイツ学术交流

会東京事務所長として、長年、留学や研究交流の支援など日独の学术交流の実務に携わってこられた方で、また世界エスペラント協会の会長を務められた経験を持ち、エスペランティストとしても有名です。

今回、この講演で日本とドイツの、ここ30年間の国際学术交流の歩みを振り返り、グローバル化が進む21世紀の国際社会における学术交流の新たな意義について話していただきました。

これまでの日本とドイツの関係について

リンス氏は、まず、過去よりも現在や将来の日独の関係の方が重要であることを前置きした上で、これまでの日本とドイツの関係について話されました。1970年代にアルヌルフ・バーリング氏らによる、日独の関係についての最初のまとまった論文集が刊行されるまで、ドイツにとって日本は遠い存在であり、それまで多くの交流があったにもかかわらず、日本はあまり注目されてきませんでした。実際にドイツが日本に目を向け始めたのは、東京にドイツ文化会館が建設された1980年前後からでした。その頃からマスコミで日本について紹介される機会が増え、科学技術の分野での日本の成功を目の当たりにして、その秘訣を知ることがドイツにとって重要であることに気付かされたのです。

また、リンス氏は、ここ20年の間に、個人レベルでの日本とドイツとの関わりも増えてきたことを取り上げられました。

ドイツ人の日本体験や日本人のドイツ体験により、それまで抱いていたステレオタイプが取り除かれ、相手方のもの見方や価値観を先入観なしに受け入れて、その人自身の世界が広がっていった事例をいくつか紹介されました。



日独交流の過去・現在・未来について語るリンス氏

今日の日本とドイツの関係について

日本でのバブル崩壊に伴い、ドイツの政治家や経済学者の日本に対する関心は弱まり、今ではむしろ中国への関心の方が強まりつつあります。また、同じく日本でも、ドイツに対する関心が薄れています。リンス氏は、これに関して、大変残念であると語られる一方で、興味・関心は移りゆくものであって、これはグローバル化に伴う、興味・関心の多様化であると指摘されました。

そうは言うものの、日本とドイツはお互いに国際共同研究の有力な相手国であることに今も変わりはありません。両国の大学間には現在230以上の学术交流協定が結ばれており、双方で英語による課程を設けるなど、交換留学しやすくするための環境整備が進んでいるとのこと。

TOPICS

これからの日本とドイツの関係について

「これからの日独関係は、グローバル化の下では、もはや従来の二国間だけのものではありません。日本はドイツがアジアを知る際の良き仲介役になれるし、また、ドイツはヨーロッパ統合のパイオニアとしてヨーロッパに根を下ろしているため、日本がなじみの薄い中・東欧と交流する際にアドバイスができます。」と、リンス氏は話され、これからの日本とドイツの展望について述べられました。その第一歩として、

ドイツ政府は来年4月から全国各地で「ドイツの年」キャンペーンを大々的に開催する予定で、またその目的は、ドイツのイメージアップを図り、若者のドイツへの関心を強めることにあるそうです。これにより、日独間の相互理解が更に深まることでしょう。山口でもこれに関連したイベントがあることを期待しています。

学内連絡先 人文学部・本田研究室



それぞれの立場から日独交流に関心を寄せる参加者の皆さん

TOPICS

山口大学における採用及び昇任人事の実態

山口大学イコール・パートナーシップ委員会

山口大学イコール・パートナーシップ委員会は、2003年3月に発表した「山口大学における男女共同参画推進のための提言」の中で、女性教職員の採用や昇進の問題に触れ、教員（特に上位階層）や係長以上の役職員に占める女性の割合が極めて少ない現状は男女共同参画の実現からほど遠いと指摘し、改善に向けた取組みの必要性について提言しました。

一方、国立大学法人への移行に伴い設定された山口大学の中期目標・中期計画には、「女性教職員の積極的採用や登用に努める」、「女性教員比率の著しい向上を目指す」、「男女均等な人事上の処遇に十分配慮する」等が掲げられており、年度計画として「女性教職員の昇進機会の増大を図ること」などが明記されています。

こうした背景のもと、本委員会では、「山口大学における人事（採用及び昇任）の実態を調査し結果を公表する。このことによつて中期目標・中期計画及び年度計画の実行・実現を促す。」を本年度の活動方針の一つに定め、教員の問題については部局長ヒアリングの形で、また教員以外の職員の問題については人事課長への照会という形で、それぞれ調査を実施しました。

このたび、調査の結果を委員会で集約し、整理・分析を行ったので、以下のとおりその概要を公表します。

I 山口大学における教員採用及び昇任に関する学部長ヒアリング結果*

1.学部長ヒアリング実施スケジュール（平成16年）

	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	工学部	農学部
日時	9/9 (木) 10:30-11:30	9/13 (月) 13:30-14:30	9/9 (木) 16:00-17:00	9/24 (金) 13:00-14:00	9/13 (月) 16:30-17:30	9/15 (水) 14:00-15:30	9/9 (木) 14:00-15:00
場所	学部長室	学部長室	経済学部 第2会議室	学部長室	学部長室	工学部長 ミーティング室	学部長室
出席者	人文学部長 (田中晋) EP委員 (右田・仲間)	教育学部長 (熊谷信順) EP委員 (仲間・右田)	経済学部長 (瀧口治) EP委員 (右田・西田)	理学部長 (増山博行) EP委員 (仲間・五島)	医学部長 (石原得博) 保健学科長 (塚原正人) EP委員 (西田・五島)	工学部長 (三木俊克) EP委員 (右田・仲間)	農学部長 (古賀大三) 副学部長 (山内直樹) EP委員 (五島・西田)

(*注) 人事労務担当副学長からの支援を得て実施された。

2.教員採用の方法について

(1) 募集方法

学部	方法:<公募/その他> (件数)	コメント
人文	完全公募制:10件	件数は平成11年からの数。
教育	完全公募制:13件	件数は平成12年度～16年度の数。
経済	原則公募制6*/2**	*全国公募。**特殊授業科目に付き私募 ^注 (任期制)。
理	完全公募制:12件	平成13年4月以後
医	医学科:3/25*(H15)、2/17*(H16)	*教授人事は公募で行う。「その他」に学内昇任人事を含む。
	保健学科:7/17 (H15)、6/9 (H16)	原則公募。公募・私募 ^注 の併用多数。

TOPICS

工	機械:4/0、 応化:完全公募、 電電:3/6、 知能:1/1、 機能:0/1、 共通:1/1、 その他:無回答 合計 18件(公募9/その他9)	原則公募制。 公募制の推進を図る。 件数は平成15年度からの数。
農	完全公募:19件。	件数は平成11年～16年についての数

(注) 私募とは、公募以外の募集方法、例えば教員の個人的な伝手を介して適任者を推挙するといった方法を指す。

(2) 応募と採用

学部	応募数:女性/全体	a) 採用; b) 不採用/理由
人文	英語学 (1/9)、日本中世史 (3/33)、日本文学(近世) (3 ^a /21)、 日本文学(中古) (16/36)、東洋史 (6/23)、現代美術 (2/15)、 比較宗教学 (9/59)、東アジア考古学 (2/22)、 中国語学 (11/27)、西洋倫理学 (10/67)	a) 1名 (H12) b) 公募条件に不適合。/研究水準で最終候補者に至らず。/応募辞退。
教育	16 ^a /105 (H12)、公募せず (H13)、8 ^a /30 (H14)、3 ^a /26 (H15)、 3/30 (H16)	a) H12年2名、H14及びH15年各1名; b) 公募条件に不適合。/女性からの応募無し。/業績水準が劣る。
経済	西洋経済史 (0/9)、国際経済学並びにヨーロッパ経済論 (0/4)、商法 (5 ^a /8)、コミュニケーション (0/6) (以上H15) 管理会計 (3/5)、行政法 (0/8) (以上H16) 合計8/48 (17%)	a) 1名 (17%)、応募数と同率。 参考:別に私募で1名 (50%) 採用。
理	12件のうち6件、14名の女性応募。(14 ^b /237)	b) いずれも不採用。/選考過程で最終候補者として残らなかった。
医	医学科<件数>:(3 ^a /4) 保健学科<件数>:(24 ^a /26)	a) 3件とも採用(医学科)。 a) 女性が採用されなかったのは2件のみ。 (保健学科)
工	機械:(1*/23)、応化:(1/(無回答))、知能:(0/6)、 共通:(1/59)、他:無回答	*選考中、他はb) いずれも不採用。/ 専門分野が異なる。/業績が劣る。
農	6 ^a /78 (7.69%)	a) 19件中のデータが得られた13件のうち1件採用 (7.69%)。応募者数と同じ割合。

(3) 公募書類への以下のような文言の記入について

「男女共同参画を推進しています」

「選考にあたっては、教育研究の業績が同等の場合には、女性を優先的に採用する(ポジティブアクション)」

人文学部	性別にとらわれず研究水準の審査により最適者を採用しているところに、ポジティブアクションの文言を入れることは逆差別とも受け取られる恐れがあり、それは、我々の本意ではない。
教育学部	大学全体の姿勢として「男女共同参画の推進」を打ち出すことは望ましいと考える。今までの採用で女性にとって不利な扱いがあったとは考えにくい。従ってポジティブアクションの明文化には慎重であるべきである。
経済学部	現在記載していない。将来的には「男女共同参画を推進しています」の文言は記載してもよいと考える。
理学部	これまでに記入した例はないと思う。今後については、部内で検討したいが、大学として、人事公募のHPに、「山口大学では男女共同参画を推進しています」と記入するなどの統一した方策をとってはいかがか。

TOPICS

医学部	していないし、考えていない。採用は男女平等にしている。文言を入れることで、特定の人がいると思われる(医学科)。 ----- していないし記入する必要がない。年齢制限もしていない(保健学科)。
工学部	男女を区別する必要がないので現在は公募書類への記載は行っていない。今後は中期目標の趣旨に沿った形で実施したい(知能)。完全に男女を平等に扱うとの趣旨から、特別の文言を入れるのは不相当と考える(共通)。
農学部	記入していない。「男女共同参画を推進しています」は書くべきかと考えている。男性を採用しないととられては困る。採用は平等にしている。

(4) 応募者の男女比率の公開

人文学部	公開に問題はないと考える。
教育学部	公開に問題はないと考える。
経済学部	男女共同参画推進につながるなら公開してもよいと考える。
理学部	男女の比率だけでなく、応募の絶対数まで公表するのがよい。
医学部	考えたことがない。公表するよういわれたらいつでも公表する(医学科)。 ----- 特に出さない(保健学科)。
工学部	特に反対する理由は見当たらない(機械)。情報公開の面から好ましいことである(知能)。公開することに問題はない(共通)。
農学部	公開することはなんともない。資料の用意はあるので、聞かれたら回答する。

3. 教員の昇任人事について

昇任基準及び昇任の自己申請制度の有無

学部	昇任基準	自己申請
人文	申合せは有るが、明文化されたものはない。	不可能ではないが、今まで自己申請はなかった。
教育	文章化されたもの有り(昭和53年と昭和57年の基準、現在機能せず)。	可能。しかし自己申請はなかった。
経済	有り(学部内周知)。	事務からの資格認定通知に基づき、昇任の意思を告げる。
理	学部としての基準はない。学科、講座ごとに異なる基準(論文数やポイント制)を持っているが公表されていない。	自ら申し出るシステムはない。
医	医学科: 有り。 ----- 保健学科: 有り。	申し出の仕組みはない。 ----- 申し出の仕組みはない。
工	学部としての基準はない。 (有り、3学科; 明確なものなし、2学科)。	できない。
農	有り「申し合わせ事項」。	自ら申し出るシステムがない。

4. 女性教員数、女性教員の現状、女性教員の採用・登用に関する中期目標、中期計画の達成

(1) 女性教員比率: 現在と将来展望

人文学部	女性教員数: 5 <9%> 採用は教員の学力を基に判断しており、公正な審査を経て女性教員が増加すればよい。「女子学生の割合を考えた上で、どの程度増えるのが望ましい」という観点では考えていない。
------	--

TOPICS

教育学部	女性教員数:15(平成16年9月1日現在) <H16, 14%; H13, 11%> 人為的なかたちではなく、自然なかたちで女性教員数が増加すればよい。
経済学部	女性教員数:8 <12%> 女性教員の数と女子学生の数を相関させる必然性は必ずしもない。女子学生のケアは他の手当をすればよい。現時点での公募における女性教員応募率と採用率は一致しており(17%)、採用数が増えないのはこの分野の女性研究者の数が少ないのが要因ではないか。
理学部	理学部の女性教員比率は4/78=5.1%。全学の平均値10.5%より低いが、工学部、農学部よりは高い。理学部の女子学生は、274/1018=26.9%、理学系専攻のMCの女子学生は48/187=25.7%、DCの女子学生は5/37=13.5%で、これらよりは低いので、将来的には理学部教員に占める女性の割合は上昇するだろう。学校基本調査によると、国立大学の本務教員のうち女性は10.76%、学部別では理学部は7.74%である。これを元に判断すると、8%程度が統計的期待値であり、将来的には10%を超えるだろう。
医学部	医学科:基盤系で21.3%、展開系9.0%、合計12.3%(H16.9.1現在)。教授、助教授は、0人と1人で少ない。女子学生は3、4割。現状では女性研究者が少ない。男女で差をつけていない。 保健学科:看護学専攻76.5%、検査技術科学専攻40.0%、合計62.9%(H16.9.1現在)。 今後、女性の比率が増えると考えている。 医学部全体:27.7%(H16.9.1現在)
工学部	女性教員数:7(H16.8.1現在) <4%> 女子学生はこの10年間で急増している。女性教員の増員について、分野によっては研究者の母数が少ないことが大きな障害となっている。
農学部	他学部と比べて女性の数が少ないことはわかっている。特に教授、助教授クラスの女性研究者が少ない。女子学生が増えているが、博士課程(ドクターコース)の学生数は少ない。

(2) 女性教員の積極的登用と女性教員比率の向上のための平成16年度の年度計画の作成と実施状況

人文学部	人為的に女性教員を登用するのではなく、公正な審査を経て採用に結びつく女性教員が増加すればよい。従って、女性教員比率向上のための目標はかかげていない。
教育学部	学部としての取り組みはしていないし、学部の中期計画にも取り上げていない。 女性教員数の増加を打ち出す前に、山口大学で女性教員数が少数であった背景、理由を洗い出すべきではないか。
経済学部	人事は差別することなく公平に行っている。今後もこの方針で行う。ポジティブアクションは逆差別にならないだろうか。
理学部	学部の教員数を毎年3%ずつ削減するような案はさておき、今次中期計画中に19名の定年予定者があるので半数程度の補充が認められ、うち1名が女性であれば比率は7.4%となる。しかし定年予定者が多い分野では女性研究者が少ないので、女性が採用されないこともありうる。定員削減が取りざたされている中で、具体的数値目標をあげるのは難しい。10月に女性の助教授1名が教授に昇任の予定(9月24日のヒアリング時点でのコメント)。
医学部	医学部全体で27.7%あり、大学全体の目標値は超えている。 保健学科は、今後女性の比率が増加すると考えている。
工学部	数値目標の設定や具体的な行動計画は未定だが、人事全体の問題として考えている。 女性の積極的登用が「理(利)にかなう」という根拠を示し、コンセンサスを得る努力が必要ではないか。
農学部	公募のときに「男女共同参画を推進しています」を書くことを検討する。中期目標に具体的数値をあげることは意味がない。全国の農学部の教員比率との比較をこれから行う。

T O P I C S

5.結果の分析と課題

<教員採用の方法>

- (1) 募集方法:学部によって採用方法に違いがあり、教授と助教授以下の場合で方法が異なる学部(医/医)、また学科により明確でない学部(工)もあったが、ほとんどの学部で公募制を採用していた。公募制が一応定着していると窺えた。
- (2) 応募と採用:そもそも女性の応募が少ない学部がある。その一方で女性応募者の多い学部でも採用数は非常に少ない(人文)。多くの学部での不採用の理由は業績が劣るというものであった。女性応募率と採用率が同率と健闘している学部があったが(農・経済)、これは意図的なものではなく公平に評価した結果であると強調された。
- (3) 公募書類への「ポジティブアクション」の文言記載:現在記載している学部はない。今後記載することについては賛否が分かれた。
- (4) 応募者の男女比率の公開:現在どの学部も応募者の男女比率を公開していないが、今後公開することに特に反対はなかった。

<教員の昇任人事…昇任基準及び昇任の自己申請制度の有無>

昇任基準有り(経済、医、工(一部)、農)、あっても死文化している(教育)、基準なし(人文、理、工(一部))と大きく分かれた。基準を満たせば自ら昇任の意思を伝えることができる仕組みがある(経済)。

<女性教員数、女性教員の現状、女性教員の採用・登用にに関する中期目標、中期計画の達成>

- (1) 女性教員比率…現在と将来展望:女性教員比率が少ないことは認識されている。しかし、ポジティブアクションは逆差別にならないか、公平に評価してその上で増加していくことが望ましい、女子学生は増加しているが女性研究者の母数が少ないことが女性教員の増えない要因である、等の発言が多い。
- (2) 「女性教員の積極的登用と女性教員比率の向上」…平成16年度計画の作成と実施状況:女性教員比率向上のための方策はいずれの学部も掲げていない。計画を実行するためのコンセンサスが得られていない(工)、採用・昇任はあくまでも業績・教育貢献を公平に評価して行うべきであるとの認識が多数を占める(全学部)。

国が推進している男女共同参画社会の実現とは何か、改めて考えさせられた。企業によっては女性の上位職への登用で成果を上げているケースもあるようだが、大学特に研究界での実現は多難である。女性の積極的登用の意義と大学及び社会全体に対する利益についての深い理解が得られなければ、この課題に対する組織としての真に積極的な行動は望めない。一方で、法人化以降人事全体の見通しが立たないことから、教員採用や昇任人事に対して慎重にならざるを得ないという事情もある。中期目標を絵に描いた餅としないためにも、大学側の配慮が重要と考えられる。

今回の学部長ヒアリングでの結果を踏まえて委員会としては、以下のことを提案する。

- a) 「山口大学は、男女共同参画を推進しています」等の文言を、大学のHPに記載するなどして、大学全体でこの問題にとり組んでいることを公に示す。
- b) 公募採用制を全学の基本合意とし、公募状況と選考結果の公表を行う。また、最低限学部内だけでも公表・説明できるような採用・昇任基準の作成やシステムの確立を全学的に進める。やむを得ず公募しない場合も、女性教員の増加につながるような配慮をする。
- c) 男女共同参画推進において(中期目標達成には)「ポジティブアクション」(業績や能力が同等であれば女性を採用する)は必要であることの理解を、教授会あるいは教員会議等で得られるような取り組みを行う。

最後に、今回の学部長ヒアリングから間接的に見えてきた下記の二点を、今後の検討課題として挙げたい。

- 1) 業績評価において産休、育休、介護休暇を取得した教員が不利益を被ることのない評価を確立する。
- 2) (男女を問わず)学内教員の業績評価において論文数だけを偏重することなく、教育や学部・大学運営への貢献等を包括したより総合的な評価基準を、大学として定める。

T O P I C S

II 山口大学における事務系職員の採用及び昇任人事に関する調査結果

—調査の対象とした職種について—

教員以外の多様な職種のうち、今回の調査は事務系職員に限定して実施しました。従って、施設系、図書系、技術・技能系等の職員は対象外となっています。これらの職種を除いた理由は、その業務内容の特殊性から採用方法も多くが事務系職員とは異なり、また職員構成上も必然的な男女の偏りがあることが明白であり、これらを含めたデータでは、かえって人事における男女比率の問題を不明確にしてしまいかねないとの判断によるものです。

1.事務系職員の採用人事について

(1) 試験採用について

① 中国・四国地区国立大学法人等職員採用試験制度のあらまし

ア. 対象職種

・事務系(図書業務を含む) ・技術系(電気、機械、土木、化学、物理、電子・情報、農学等)

イ. 受験から採用内定までの流れ

第一次試験受験 → 合格(合格者名簿登録) → 採用合同説明会 → 各大学への個別訪問
→ 第二次試験受験 → 採用内定

ウ. 受験資格

・試験実施年度の4月1日現在で満19～28歳の者
(平成16年度採用試験の場合:S50.4.2～S60.4.1生まれ)

エ. 試験方法、試験の時期及び実施機関

区 分	試験方法	試験時期	実施機関
第一次試験	教養試験(大学卒業程度の筆記試験)	5月下旬(年1回)	国立大学法人等職員採用試験実施委員会
第二次試験	面接考査	7月上旬～	各大学等

〈委員会コメント〉 法人化に伴い、国立大学法人として新たに開発した試験制度である。国家公務員採用試験がモデルとなっていることは明白であるが、最も大きな違いは、試験の種別が国家公務員採用試験のⅡ種に相当するものしかないことである。このため、高校新卒者(18歳)には受験資格がない。

② 山口大学としての職員採用方針等

第二次試験の可否は、第一次試験(教養試験)の素点及び第二次試験(面接考査)の評価点を総合的に考慮して判定している。特に採用方針として策定したものはないが、男女比のバランスにも考慮して、成績優秀者から順次採用している。

〈委員会コメント〉 ここで考慮されている男女比のバランスとは、比率などの数値設定があるわけではなく、あまり極端にいずれかに片寄らないようにするという程度のものである。

③ 平成16年度中国・四国地区国立大学法人等職員採用試験第一次試験合格者、第二次試験(山口大学)受験者及び山口大学被採用者の男女別人数

区 分	男	女	計	女性の占める割合
第一次試験(中国・四国地区)合格者	361	184	545	33.8%
第二次試験(山口大学)受験者	65	20	85	23.5%
山口大学被採用(予定)者	11	3	14	21.4%

T O P I C S

〈委員会コメント〉 平成16年度の試験採用において、本学の採用者に占める女性の割合が第一次試験合格者全体の女性の割合に比べかなり低いのが気になる。ただし、第二次試験に限ってみれば、本学への就職を希望し受験した者の男女比率と合格者(採用された者)の男女比率はほぼ同程度になっている。

(2) 選考採用について

国立大学法人等職員採用試験の対象職種については、原則として採用試験の結果に基づき採用することとしているが、特別な事情がある場合には選考により採用することもある。採用試験の対象職種でありながら選考により採用する場合として想定される特別な事情は次のとおりである。

- ・ 専門的な知識・経験又は資格を必要とする場合。
- ・ 地方公共団体及び民間等から人事交流により採用する場合(任期付き)。
- ・ 採用候補者一覧表に候補者がいなくなった場合。

〈委員会コメント〉 国家公務員における選考採用のルールと同様であり、本学にとって従来と変わっていないことになる。選考採用は、どうしても採用しなければならない職があり適任者が試験合格者の中から得られない事態に対処するための例外的手段であり、現実には選考採用が行われることは極めて少ないと思われる。

2.事務系職員の係長(専門職員)への昇任人事について

—調査の対象としたポストについて—

事務系職員には、一般職員、主任、係長(専門職員)、補佐(専門員・主任専門職員)及び事務長(課長・室長)の学内ポストがあり、それぞれ上位ポストへの昇任人事が行われるが、今回の調査は主任から係長(専門職員)への昇任人事に焦点を当てて行った。その理由は、2003年3月に発表した「山口大学における男女共同参画推進のための提言」の中で示した行政職(一)職員の在職状況でも明らかのように、係長(専門職員)以上の役職員に女性の比率が極めて少ないことに注目するとともに、補佐(専門員・主任専門職員)や事務長(課長・室長)については対象数が極めて小さいことから除外したものです。

(1) 毎年の4月人事の実態

① 選考方法、選考の流れ(手順)

事務局各部及び各部局に対する人事異動に関するヒアリング → 事務局各部及び各部局から候補者の推薦 → 選考

〈委員会コメント〉 昇任人事に関しては、ヒアリングを実施したり各部局等からの推薦を受けたりはするものの、以後の選考の手順や方法については明確にされていない。

② 基本的な資格要件(年齢、級・号俸、現職在任年数等)

特に資格要件についての定めはなく、適材適所で行っている。

〈委員会コメント〉 各部局等からの推薦を求める際に年齢や経験等に関する一定の「目安」は示されるが、それはあくまで「目安」であって資格要件ではないとのことである。

③ 過去の実績

年 度	主 任 数				昇 任 者			
	男(人)	女(人)	計(人)	女性の割合(%)	男(人)	女(人)	計(人)	女性の割合(%)
昭和60年度	(データなし)		54	—	9	0	9	0.0

T O P I C S

平成 2年度	44	26	70	37.1	6	0	6	0.0
平成 7年度	49	40	89	44.9	8	1	9	11.1
平成12年度	57	51	108	47.2	3	3	6	50.0
平成16年度	55	44	99	44.4	11	3	14	21.4
計(平成2～)	205	161	366	44.0	28	7	35	20.0

(注)1.「主任数」は、3月1日現在の人数である。

2.他機関から本学係長(専門職員)に昇任した場合は含まない。逆に、本学から他機関の係長(専門職員)に昇任した場合は含む。

〈委員会コメント〉 係長(専門職員)昇任候補者となり得る資格要件の定めがなく、やむを得ず主任の人数と昇任者の人数を比較したものであるため、主任数がそのまま候補者数ということにはならない点に注意してデータを見なければならない。そのことを踏まえるならばこのデータでの単純比較は適切でないかもしれないが、それを承知であえてこの表から傾向を探るならば、全体として主任中の女性の割合よりも昇任者中の女性の割合が低い、唯一昇任者中の割合のほうが上回っている平成12年度の例を含め、近年次第に女性の比率が向上傾向にあることがわかる。

(2) 女性役職員の比率向上のための方策

役職員に占める女性職員の比率が極めて低い現実、男女共同参画社会実現の流れからも大きな課題であることは充分認識している。

今後においても、男女の区別なく適材適所・能力主体で人材登用していくことは基本であるが、業務遂行にあたって女性の意見を幅広く取り入れるなど、女性の参画意識の高揚を図る方策の検討や、女性の働きやすい職場環境の整備の具体的方策の検討などを推進し実行していく。

〈委員会コメント〉 女性役職員の比率が低いことは認識されており、早急にこれを改善する積極的な方策の検討が望まれる。

3.今後の課題(委員会提言)

事務系職員の採用は、国立大学法人等職員採用試験によって行われている。本学における最終選考では男女比のバランスが一応考慮されているようであるが、極端にいずれかに片寄らないようにするという程度で、比率などの数値設定があるわけではない。本学の平成16年度試験採用者中の女性の割合が平均より少ないことを示す調査結果は気になるところである。

一方、昇任人事に関しては、主任中の女性の割合に比べ昇任者中のそれが明らかに低く、近年次第に女性の割合が向上傾向にはあるものの、依然として女性役職員が圧倒的に少ない状況は変わっていない。このことが認識されいながら早急にこれを改善する積極的かつ具体的方策は打ち出されていない。

事務系職員におけるこうした状況を改善するには、公平な人事を心がけ男女を対等に扱うことはもちろんであるが、人事の仕組みを改善する等の積極的な方策が講じられなければならない。例えば、資格要件(昇任の場合)や選考の基準を明確にし公表すること、組織的な選考システムを確立し公表すること、等の方策を講じ透明性を確保する必要がある。

学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5551

E-mail: arita@yamaguchi-u.ac.jp

私の授業

量子化学という魅力的で厄介な科目



右田 耕人 助教授
理学部化学・地球科学科 化学講座

はじめに

量子化学という科目は量子力学という偉大な父をもつ末っ子のような存在です。化学を対象に量子力学の方法を用いてすばらしい成果をあげた分野の科目です。父親である量子力学自体、学生の立場からするととても険しい山のように感じられるように、量子化学も学生にとっては、とにかく最初はやたらと敷居が高い科目です。私自身、延々と数式を操った取り扱いが続いているか、あるいは逆に式が全く出てこないで抽象的な内容の本で学ばなければなりません。前者の取り扱い本を読むと、数学的な能力がないことを痛感させられました。後者の場合にはその本を読み終わっても、その内容を本当に理解できたのかどうかまったく自信がありませんでした。内容を理解することでこんなに苦労した科目を私が担当することになって既に十数年経過しておりますが、なかなか思ったような授業ができておりません。この科目の内容を概説しますと、量子力学の生い立ちから始め、簡単な力学的系に対する量子力学による取り扱いについて説明し、原子の電子軌道や分子の結合について学び、最終的には分子軌道を自分で計算するという構成になっています。

初期のとりくみ

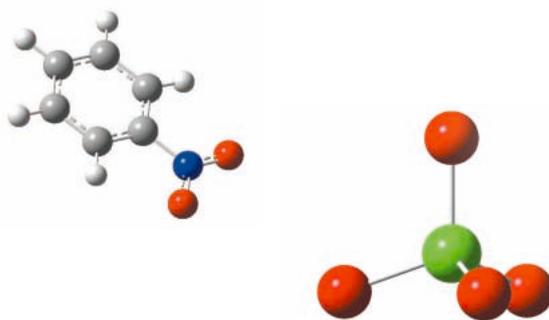
最初は、この科目の講義の進め方として、私自身が苦労したところを詳しく説明するという

やり方をとりました。今ではこれは間違った取り組み方であったと反省しております。一回の講義で黒板を何度消したことでしょう。このやり方で受講学生にこの科目を好きになってもらうのは無理だったようです。私も受講者も共にまさに肉体労働の連続でした。次に、この労働を軽減するためにプリントの山をつくることにしました。また、いろいろな角度から考えた練習問題を出し、それを宿題として与えました。今でも、このくせは抜けていませんが、ひたすらプリント作りに専念しておりました。大量のプリントを配るとそれだけで説明が終わった気分になります。しかし、実際には、これを受け取った学生がそれを読んで理解した段階で、初めて私が説明したことと同等になるのです。プリントを配るというこの方法を現在の講義に置き換えて見ますと、ひたすらホームページを作成し、パワーポイントのファイルをつくるという作業がそれにあたるでしょう。これらの素材をいかに利用するかという点が問題で、未だにその解答を得ておりません。

そして現在

そこで、やはり原点に戻って、この講義には演習が絶対に必要であるという結論になりました。ただし、昔試みた練習問題の山を作ってそれを解いてもらうという方法ではなく、楽しみながら理解していける演習にすることが重要です。計算化学という科目を担当したときに新しい方法を思いつきました。ちょうどメディア基盤センターでMOPACというソフトウェアを購入していただいたときでしたから、これを使って分子軌道計算をする演習をしました。毎回TAの人と受講学生のみんで計算に取り組みました。講義の最後に行う授業評価で高いポイントが出たのは未だにこの講義だけです。近年、ソフトウェア開発の進歩が目覚しく、分子軌道計算の分野でも実用的で高度な計算ができるプログラムが比較的簡単に手に入ります。一昨年、化学講座でそのソフトウェアをサイトライセンスで購入していただきました。そのソフトウェアは現在メディア基盤センターのパソコンにインストールされていて、誰でも使えるようになっています。今年の講義からこのソフトウェアを使った演習を採り入れました。授業時間と空き時間を使って、受講学生は簡単な分子から多少複雑な分子まで数々の計算を行いました。彼らは知らず知らずのうちに高度な分子科学計算を実行しているのです。残念ながらまだ楽しく計算するという状況ではありませんので、今後更にもう一工夫が必要なようです。ぜひこの講義で学んだ量子化学の方法で分子軌道計算を自由に

操って自分たちの研究に利用してほしいと願っています。



学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5733

E-mail:migita@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

マーケティングのダイナミズム



米谷 雅之 教授
経済学部経営学科 流通システム講座

ビジネス・コアとしてのマーケティング

私の主な研究領域はマーケティングです。マーケティングは、商品の販売が一般に難しいなかでの、販売の実現を目指して展開される企業の市場活動をいいます。供給過剰のなかで、しかも熾烈な競争のなかで、つくったモノを計画通りに販売していくことは並大抵のことではありません。研究開発や生産に多額の資金を投入し、満を持して出した商品なのに、なかなか売れないということをよく耳にします。「売れる仕組み」をどのように創り出していくかは、企業が取り組まなければならない最も重要な課題となっています。

いくら良い商品をつくったとしても、販売がうまくいかなければ、当該商品はおろか、倒産

という深刻な事態をも招きかねません。販売の過程が商品の「命懸けでの飛躍の過程」と呼ばれるのはそのためですし、多様な企業の活動は、販売過程で最後の審判を受けることとなります。そのためにはマーケティングに軸足を置いた経営が求められますし、企業の市場対応、競争対応、流通対応が問われることとなります。

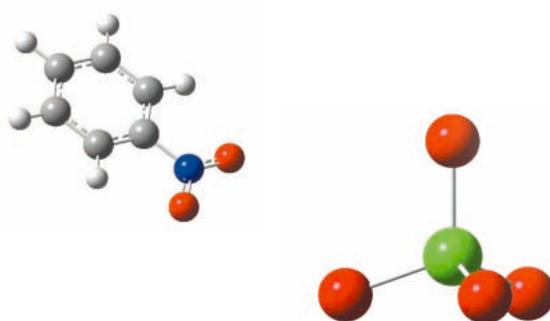
マーケティング・コアとしての製品戦略

マーケティング研究で、私が最も時間を割いてきたのは製品戦略研究ともいべき領域です。企業が販売の困難に直面してマーケティングを推進する場合、一般に製品（商品）、価格、販売促進、販売チャネルといった戦略変数が問題になります。どのような製品を、どのような価格で、どのような販促手段を使って、どのような販路を通して販売すればよいかという、周知の「4P」からなるマーケティング・ミックスの問題です。

これでいえば、私の研究対象はマーケティング構成素としての「製品」であり、製品の形成と販売をめぐる企業の戦略的行動を明らかにすることに注力してきました。特に製品戦略がその形成と展開の過程でもつ対抗的、動的な性格を析出しながら、それを通してマーケティングのダイナミズムを説明することを課題としてきました。

このようなテーマに固執するのは、製品戦略こそが現代マーケティングの戦略中心に位置づけられるという思いがあるからです。「製品」はマーケティングによってその販売を実現しなければならない価値物であると同時に、価格や販売チャネルなどとともにマーケティングの手段にもなっており、その意味で「製品」はマーケティングに目的と手段を提供する特異な戦略変数であるわけです。そのために製品の形成と販売をめぐる活動は、従来の「4P」論などと言われるような平板で静態的な活動以上のものを含んでいますし、したがってマーケティングの

操って自分たちの研究に利用してほしいと願っています。



学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5733

E-mail:migita@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

マーケティングのダイナミズム



米谷 雅之 教授
経済学部経営学科 流通システム講座

ビジネス・コアとしてのマーケティング

私の主な研究領域はマーケティングです。マーケティングは、商品の販売が一般に難しいなかでの、販売の実現を目指して展開される企業の市場活動をいいます。供給過剰のなかで、しかも熾烈な競争のなかで、つくったモノを計画通りに販売していくことは並大抵のことではありません。研究開発や生産に多額の資金を投入し、満を持して出した商品なのに、なかなか売れないということをよく耳にします。「売れる仕組み」をどのように創り出していくかは、企業が取り組まなければならない最も重要な課題となっています。

いくら良い商品をつくったとしても、販売がうまくいかなければ、当該商品はおろか、倒産

という深刻な事態をも招きかねません。販売の過程が商品の「命懸けでの飛躍の過程」と呼ばれるのはそのためですし、多様な企業の活動は、販売過程で最後の審判を受けることとなります。そのためにはマーケティングに軸足を置いた経営が求められますし、企業の市場対応、競争対応、流通対応が問われることとなります。

マーケティング・コアとしての製品戦略

マーケティング研究で、私が最も時間を割いてきたのは製品戦略研究ともいべき領域です。企業が販売の困難に直面してマーケティングを推進する場合、一般に製品（商品）、価格、販売促進、販売チャネルといった戦略変数が問題になります。どのような製品を、どのような価格で、どのような販促手段を使って、どのような販路を通して販売すればよいかという、周知の「4P」からなるマーケティング・ミックスの問題です。

これでいえば、私の研究対象はマーケティング構成素としての「製品」であり、製品の形成と販売をめぐる企業の戦略的行動を明らかにすることに注力してきました。特に製品戦略がその形成と展開の過程でもつ対抗的、動的な性格を析出しながら、それを通してマーケティングのダイナミズムを説明することを課題としてきました。

このようなテーマに固執するのは、製品戦略こそが現代マーケティングの戦略中心に位置づけられるという思いがあるからです。「製品」はマーケティングによってその販売を実現しなければならない価値物であると同時に、価格や販売チャネルなどとともにマーケティングの手段にもなっており、その意味で「製品」はマーケティングに目的と手段を提供する特異な戦略変数であるわけです。そのために製品の形成と販売をめぐる活動は、従来の「4P」論などと言われるような平板で静態的な活動以上のものを含んでいますし、したがってマーケティングの

ダイナミズムを説明するためには、新たな視角からの考察が必要であるという強い思いがあるからです。

このために、理論と実証の両面から関連する研究を積み重ねて、仮説の導出と検証を行い、その過程で日本企業に対する大がかりな調査を数回実施してきました。こうした研究をもとに、その成果を『現代製品戦略論：現代マーケティングにおける製品戦略の形成と展開』（千倉書房、2001年）として、出版いたしました。課題の究明にどの程度成功しえたかどうかはわかりませんが、光栄にも「本書は、・・・マーケティングの基本問題を見据え、それとの関係で製品戦略の、ひいてはマーケティングのダイナミズムを解明しようとした点で、野心的な試みを展開した」として、商学研究の中心学会である日本商業学会から学会賞（優秀賞）を受けることができました。

いくつかの関連する研究

山口大学での研究を定年で閉じようとしてい

ますが、現在、この研究の延長として、新製品開発の成果を規定する要因の研究を行っています。外国では多くの研究がありますが、日本での日本企業を対象とした研究は殆どなされていません。新製品開発や技術と経営の連携が模索されている今日、実りある成果を出せればと思っています。

いまひとつ、もともと国際共同研究として始めた中国自動車企業の研究も、収穫の時期を迎えようとしています。中国は今や自動車大国になりつつありますが、中国での自動車マーケティングの特殊性と共通性をあぶり出しながら、特に販売チャンネルの構築と維持をめぐるマーケティングのダイナミズムを明らかにしたいと思っています。

学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5537

E-mail:kometani@yamaguchi-u.ac.jp

深海底における メタンハイドレート 開発について



兵動 正幸 教授
工学部社会建設工学科 地盤工学研究室



写真-1 メタンハイドレートの燃焼の様子

メタンハイドレートとは

次世代のエネルギー資源としてメタンハイドレートがホットな注目を浴びています。メタンハイドレートは、水（又は氷）とメタンガスとが低温・高圧条件下で反応して生成される氷に似た物質です。メタンのほかにエタンやプロパンなどの炭化水素や硫化水素、炭酸ガス、空気などがハイドレートを作る物質として知られています。メタンハイドレートは、それ自身の体積の170倍のメタンガスを含むことができ、将来の天然ガス資源として期待されています。

メタンハイドレートは、写真-1に示すように安定状態では氷状であり、火をつけると燃焼することから、「燃える氷」とも形容されています。



写真-2 日本周辺のメタンハイドレートの分布状況

ダイナミズムを説明するためには、新たな視角からの考察が必要であるという強い思いがあるからです。

このために、理論と実証の両面から関連する研究を積み重ねて、仮説の導出と検証を行い、その過程で日本企業に対する大がかりな調査を数回実施してきました。こうした研究をもとに、その成果を『現代製品戦略論：現代マーケティングにおける製品戦略の形成と展開』（千倉書房、2001年）として、出版いたしました。課題の究明にどの程度成功しえたかどうかはわかりませんが、光栄にも「本書は、・・・マーケティングの基本問題を見据え、それとの関係で製品戦略の、ひいてはマーケティングのダイナミズムを解明しようとした点で、野心的な試みを展開した」として、商学研究の中心学会である日本商業学会から学会賞（優秀賞）を受けることができました。

いくつかの関連する研究

山口大学での研究を定年で閉じようとしてい

ますが、現在、この研究の延長として、新製品開発の成果を規定する要因の研究を行っています。外国では多くの研究がありますが、日本での日本企業を対象とした研究は殆どなされていません。新製品開発や技術と経営の連携が模索されている今日、実りある成果を出せればと思っています。

いまひとつ、もともと国際共同研究として始めた中国自動車企業の研究も、収穫の時期を迎えようとしています。中国は今や自動車大国になりつつありますが、中国での自動車マーケティングの特殊性と共通性をあぶり出しながら、特に販売チャンネルの構築と維持をめぐるマーケティングのダイナミズムを明らかにしたいと思っています。

学内連絡先

TEL&FAX:083-933-5537

E-mail:kometani@yamaguchi-u.ac.jp

深海底における メタンハイドレート 開発について



兵動 正幸 教授
工学部社会建設工学科 地盤工学研究室



写真-1 メタンハイドレートの燃焼の様子

メタンハイドレートとは

次世代のエネルギー資源としてメタンハイドレートがホットな注目を浴びています。メタンハイドレートは、水（又は氷）とメタンガスとが低温・高圧条件下で反応して生成される氷に似た物質です。メタンのほかにエタンやプロパンなどの炭化水素や硫化水素、炭酸ガス、空気などがハイドレートを作る物質として知られています。メタンハイドレートは、それ自身の体積の170倍のメタンガスを含むことができ、将来の天然ガス資源として期待されています。

メタンハイドレートは、写真-1に示すように安定状態では氷状であり、火をつけると燃焼することから、「燃える氷」とも形容されています。



写真-2 日本周辺のメタンハイドレートの分布状況

メタンハイドレートの存在域

メタンハイドレートは、わが国周辺海域でも南海トラフや北海道周辺海域等に分布が予想され、日本周辺海域の資源量は約7.4兆 m^3 と試算されています。この資源量は日本の天然ガス年間使用量の約百倍程度に相当するといわれています。メタンハイドレートは、低温または高圧の状態下でしか存在しないので、天然での存在域は、深海底か永久凍土域に限られてきます。しかし、メタンハイドレートの圧力条件での存在可能な領域は、世界中の海底に存在することから、うまく利用すればこれまでのエネルギーと違って、各国が利害関係を引き起こさず自国で生産できるエネルギーとも言われています。

日本周辺のメタンハイドレートの分布を写真-2に示します。日本周辺では海洋にのみ存在が確認されており、網走沖、奥尻沖、十勝沖、日高沖、西津軽沖、南海トラフ（東海沖～四国沖）などに分布していると推定されています。日本周辺のメタンハイドレート層は、水深500m以深の海域にしか存在しませんが、水深500m付近のメタンハイドレート層は薄いと考えられ、ある程度の層厚を持つと推定される水深1000m程度以上の水深で掘削を行うことが考えられています。

メタンハイドレートの生産手法

メタンハイドレートの生産には、海洋石油・天然ガスの掘削技術を応用して、掘削リグを用いて、水深1000m前後、海底面下数百mまで掘削を行うことが考えられています。しかし、メタンハイドレートは固体であり、石油や天然ガスのように自噴はしないと考えられます。そこで、現状では、メタンハイドレートを地層中で分解させ、メタンガスに変換して取り出すことが検討されています。その方法には(1)加熱法、(2)減圧法、(3)分解促進剤注入工法の三つが考えられています。

メタンハイドレート開発計画

我が国では、経済産業省により1995年メタンハイドレートに関する調査研究が着手されました。また、2000年には、静岡県御前崎沖南海トラフで基礎試験が行われ、海洋では世界で初めて砂層中にメタンハイドレートが確認されました。2000年6月には、経済産業省にメタンハイドレート開発検討委員会（委員長 田中彰一 東京大学名誉教授）を設置して2002年7月にメタンハイドレートを経済的に掘削、生産回収するための「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」がとりまとめられました。その遂行のためにメタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム

(MH21)が設立されました。この開発計画は3フェーズに分かれ、16年間に及ぶ計画となっています。

MH21研究コンソーシアムでは、開発対象として、海底の砂層中に賦存するメタンハイドレートとしており、1)資源量評価グループ、2)生産手法開発グループ、3)環境影響評価グループの3つの研究グループに分かれて研究が進められています。山口大学からもこのMH21研究コンソーシアムの中に、工学部社会建設工学科の私達地盤工学研究室と機能材料工学科の岡本教授、田中助教授の研究室が参加して研究を行っています。また、学内ではこのテーマで研究推進体を組織しています。

メタンハイドレート堆積層の力学特性に関する研究



写真-3 メタンハイドレート用三軸試験装置

海底地盤内のメタンハイドレートの生産を実現するためには、掘削の安全性からも環境評価の面からも、メタンハイドレートを含む地盤の力学的性質の解明が不可欠です。私達は、それを実現するために、高圧三軸試験に温度調整を可能としたメタンハイドレート用三軸試験機（写真-3）を作成しました。この試験機では、深海底のメタンハイドレート層の環境状態を再現するための高い背圧と、海底地盤の土被り圧を表す高い側圧の負荷が可能です。さらにメタンハイドレート供試体のセット時の安定性を確保するための低温状態の確保、そして加熱法による生産を想定しての高温状態への温度変化が可能となっています。

メタンハイドレート資源開発の研究は、日本が世界に先駆けて行っている研究です。また、多くの研究分野が協力して進めています。今後とも多くの分野との協力のもと、最新の成果に注目して研究を進めていきたいと考えています。

学内連絡先

TEL:0836-85-9343 FAX:0836-85-9301
E-mail:hyodo@yamaguchi-u.ac.jp

白色発光ダイオード (LED)照明システム研究



田口 常正 教授
工学部電気電子工学科

私の研究室と研究内容

研究室は、工学部電気電子工学科光量子半導体工学講座、および大学院理工学研究科物質工学専攻に属しています。スタッフは、教職員5名（田口、山田陽一助教授、倉井聡助手、小橋克哉技術職員、来島さえみ事務補佐員）です。2004年度の学生メンバーは、博士後期課程3名、前期課程15名、卒業研究を行う4年次学生が8名です。

研究室の設立は、私が大阪大学工学部から転任した1994年6月で、今から約10年前にさかのぼります。阪大時代から、ワイドギャップ化合物半導体であるZnS等を中心としたII-VI族化合物半導体のMOCVD（Metalorganic chemical vapor deposition：有機金属気相法）による結晶成長、光物性評価および歪超格子を利用した紫外発光デバイスの基礎研究を行い、山口大学においてさらに高品質ZnSのMBE（Molecular-beam epitaxy：分子線エピタキシー）成長を進め、結晶成長と光物性評価法を世界一流の技術に仕上げました。1998年以降から以下に記す大型国家プロジェクトを推進し、II-VI族と窒化物系III-V族化合物半導体を応用した「白色LED（light-emitting diode：発光ダイオード）照明」に関する基礎と実用化研究を行っています。以下に、これまでの研究の概要について説明します

大型国家プロジェクト推進

①「高効率電光変換化合物半導体開発（通称、“21世紀のあかり”）」国家プロジェクト（経済産業省・NEDO：1998年8月～2003年3月）

大阪大学在職中から世界に先駆けて、ZnS単結

晶を用いた青色LEDを作ってから、約20年間、ワイドギャップ化合物半導体であるZnS、GaNの紫外光物性の研究を進めてきました。化合物半導体で紫外光を発するLEDを作り、蛍光灯と同じ原理でRGB（光の3原色、Rは赤、Gは緑、Bは青）蛍光体を励起して白色光を作り出す蛍光灯式白色LED（私の発明）の実用化が目的でした。

白色LED光源は蛍光灯で使っているガラス管、不活性ガス、水銀などが必要ではありません。さらに、変圧器、昇圧器も不要で電力が大幅に省け、熱の発生も少ない理想的な白色光源です。これで白熱蛍光灯を代替することができるなら省エネルギーで廃棄物が少なく、地球環境にやさしい照明システムを作ることが可能になります。私のアイデアは、1997年、経済産業省（当時、通産省）に注目され、地球温暖化防止京都会議に向けた省エネルギー対策「高効率電光変換化合物半導体開発（21世紀のあかり）プロジェクト」として採用されました。このプロジェクトで、プロジェクトリーダーを務め、日本、米国の企業13社が連携し、研究開発を進めました。図1と2は、工学部キャンパス内に設置されている白色LED照明システムを応用した太陽電池とLED街灯とサインパネルです。近紫外LEDの外部量子効率を40%（当時の青色LEDで15%、紫外LEDで7.5%）に高める目標を設定しました。2002年12月、外部量子効率43%と世界最高の近紫外LEDが完成し、高性能の白色光源の量産へ向けた下地ができ上がりました。現在、「21世紀のあかりプロジェクト」は、アメリカ、アジア諸国を中心とした世界の白色LED関係の研究開発を推進・加速するために重要な役割を果たしています。



図1 白色LED照明を利用したLED街灯



図2 白色LED照明を利用したLEDサインパネル

②知的クラスター創生事業「白色LED医療応用」
国家プロジェクト（文部科学省：2004年4月～
2009年3月）

2002年より文部科学省の知的クラスター創生事業プロジェクトの試行地域に選ばれました。また、研究統括として、2004年から5年間の予定で山口大学医学部・病院・保健センターと共同で、医療用白色LED光源の開発とその医療機器への応用を目指して、LED内視鏡、光治療機器および病院内照明器具開発の実用化研究を行っています。これは、白色LED光源・器具を用いた照明システム技術により医療の現場を変えていこうとする斬新なプロジェクトであり、将来（2010年以降）、市場規模として500～1000億円を見込んでいます。技術課題の目標値、解決策等についてのロードマップは“21世紀のあかり”計画の基本理念をそのまま継承しています。現在、只友一行教授のグループと共同でMOCVD成長、LED製作等を進めています。

医科学においては、“見る”ことは基本中の基本であり、照明光源の果たす役割は重要です。医学部第一内科の沖田 極病院長、柳井秀雄助教授（現、国立病院機構関門医療センター消化器科医長）と共同で、電子内視鏡の先端部にLED光源を付け（図3）、世界で初めてビーグル犬を用いた動物実験を行いました。この様子は、昨年5月8日「LED内視鏡」というテーマでNHK山口および本年9月18日KRY（山口放送）にて放映されました。



図3 ビーグル犬による白色LED内視鏡の動物実験の様子(田口と柳井医師)

今後の展望

以上の様に、次世代の照明“あかり”を創生する国家プロジェクトを推進する中で、研究室のスタッフと大学院の学生は大学と企業におけるパートナーシップのあり方、研究の進め方および企業の研究スタイル等について学んでもらっています。私自身は、白色LED照明に関する研究拠点（COE）形成のため、世界一流の研究成果を出していくことが大学研究室の使命であると考えています。今後、山口大学を中心として日本の数多くの大学院学生および企業の研究者が参加できる「白色LED照明システム」研究所・センターの設立を目指しています。

学内連絡先

TEL&FAX:0836-85-9405

E-mail:taguchi@yamaguchi-u.ac.jp



馬形土製品

緑釉陶器

第20回企画展

「古代の周防國展」

すおうのくに

—平成16年11月6日（土）より開催中—

須恵器

瓦

製塩土器

人面墨書石

猪

土師器

埴埴

開館時間	午前9時～午後5時
休館日	毎週土・日曜日、祝祭日 年末年始（11月6日の姫山祭は開館）
入館料	無料
主催	山口大学埋蔵文化財資料館
共催	山口大学エクステンションセンター
後援	山口市教育委員会

お問い合わせ先

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口市大字吉田1677-1

TEL/FAX (083)933-5035

E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学埋蔵文化財資料館

公開授業

開催と参加者募集のお知らせ

「古代人の知恵に挑戦！ —弥生土器をつくってみよう—」

吉田遺跡から出土した弥生土器を観察し、それを参考にして自由に土器を作ってみましょう。

開催日 平成16年12月4日(土)
時間 (受付) 午前9時30分～10時
(授業) 午前10時～午後4時(終了時間は多少前後するかもしれません)
対象 小学校高学年以上(小学生は保護者同伴)
定員 10人程度
参加料 無料
申し込み方法 電話、FAX、Eメールのいずれかでお申し込み下さい。
締め切りは11月26日(金)ですが、定員になりしだい締め切ります。

*作った土器を12月18・19日に焼きます。(こちらは自由参加です)

お問い合わせ先

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口市大字吉田1677-1

TEL/FAX (083) 933-5035

E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp



主催 / 山口大学埋蔵文化財資料館
共催 / 山口大学エクステンションセンター
後援 / 山口市教育委員会

新聞掲載された山大・地域から見た山大

7月

- ◆ 研究推進体発足記念シンポ ー山口大ー
学部超え3人が発表 (毎日:2日・山口:6日)
- ◆ 角膜や臓器移植 経験者の絵画展
5日から山大附属病院など (朝日:3日)
- ◆ 24日から「サマースクール」 ー山口大学理学部ー
(サンデー山口:4日)
- ◆ 山口大に「観光政策学科」
振興に貢献 来春設置へ
(毎日・読売・朝日・日経:7日)
- ◆ 佐世保の小6事件を受け「ネットの影」考える
山大4年 教員の卵が議論 (朝日:9日)
- ◆ 劇団笛の定期公演 ー山口大学演劇サークルー
(サンデー山口:10日)
- ◆ やまぐち夢追い人 探る 究める 見つける
私の研究人生 山大教育学部助教授 丹 信介さん
Q運動自体がストレスって本当? 脳の神経活動を活性化
(毎日:15日)
- ◆ 山口大学 木工入門講座
(サンデー山口:24日)
- ◆ やまぐち夢追い人 探る 究める 見つける
私の研究人生 山口大時間学研究所長 井上慎一さん
Q時間とは何か? 大切な生物リズム
(毎日:29日)
- ◆ 山大などの58件採択
文科省の大学教育重点支援 国立の優位続く
(山口・日経・読売・:31日・山口:8月6日)

8月

- ◆ 「中高年の健康」受講生を募集 ー山口大ー
(山口:6日)
- ◆ 日本語教師養成講座
講師は山口大学教授林 伸一氏
(サンデー山口:6日)
- ◆ 東南アジア青年の船 参加の山大生壮行
山口大教育学部4年、渡辺恵理さん
(山口:12日)
- ◆ 地域と連携街づくり ー山大・県立大・山口芸術大ー
10月に全国サミットを開催 (朝日:18日)
- ◆ 学生ダートラ山口大生V
全日本選手権男子団体の部 個人でも2位入賞
(朝日:19日)
- ◆ 山大の公開講座や講演会 ー地域貢献事業アンケートー
高校生半数「知らない」 (山口:18日)
- ◆ 山口大学の金折教授 英国出版から功労賞
地質工学の実績評価 (サンデー山口:25日)
- ◆ 山口大学サタデーカレッジ 後期受講生を募集
(サンデー山口:25日)
- ◆ 微細な泡で起業の山大院生 ー大成 博音ー
(毎日:30日)

9月

- ◆ 国際環境協力シンポジウム参加者募集
(サンデー山口:1日)
- ◆ 県内に活断層系存在 島根県→山口市→宇部市に地震の帯
山口大の金折教授が調査・立証 (毎日:4日)
将来M6規模の地震も
- ◆ 外国人留学生 高校の教壇に (毎日:7日)
- ◆ 薬害被害者が体験談講義 ー山大などー
医系学部の4割実施・検討 (山口:9日)
- ◆ 理系白書'04 成果で社会貢献 ー山口大ー
国立大の法人化で加速 奮闘する研究者
(毎日:10日)
- ◆ 山大卒業生12人 50年前の作品展 ー小郡のアトリエkei
(山口:11日)
- ◆ 理系白書'04 成果で社会貢献 特許戦略に本腰
ー山口大学工学部古川浩平教授ー (毎日:10日)
- ◆ 山大口口中学混声で金賞 (朝日:20日)
- ◆ 探る 究める 見つける 私の研究人生
Q人間にとって視覚とは? 国際的で最良の医療を
ー山口大医学部教授 西田 輝夫さんー (毎日:23日)
- ◆ 大学と企業が“お見合い” ー東京国際フォーラムー
産学官一体、ものづくり (山口:29日)

10月

- ◆ 観光分野で2大学連携 ー山口大と萩国際大ー
人材育成や研究拠点 (朝日・毎日・読売・山口:6日)
- ◆ 「市民の防災意識低い」 17県の担当課が認識
ー山大工学部山本哲朗教授が全国アンケートー (毎日:6日)
- ◆ エコキャンパス促進協発足
県内11大学スクラム (山口:6日)
- ◆ 大学評価制度でシンポ ー山口大ー (中国:7日)
- ◆ 活字離れ防止へ
本紙を教材に 山大が授業スタート (毎日:8日)
- ◆ 『理数系離れ調査』選ぶ
山大 大和田助教授ら共同研究 (毎日:8日)
- ◆ 太陽をひとかじり
部分日食 山大助教授が撮影成功 (読売:15日)
- ◆ 動物と共生テーマ 23日から市民講座
山大農学部獣医学科 (山口:20日)
- ◆ 山口大とトクヤマ連携協定
共同研究や人材交流へ (朝日・日経・読売・山口:27日)
- ◆ 寄稿 山本哲朗・山口大教授
土砂災害への意識高めて
あなたの裏山は危険箇所では? (山口:28日)
- ◆ 山大とトクヤマ徳山製造所
包括的連携協定結ぶ
共同研究を積極的に推進 (毎日:29日)

編集後記

冒頭で紹介した懇談会でのこと。講師に対して質問者（学生）が最初に「今日はタメになるお話をありがとうございました。」と述べ、質問を開始する場面が幾度か見られた。まず、お礼を述べる。よい心がけだ。が、企業の人事担当がこの場面を見たらどう評価するだろうか？おそらくポイントは高くないかマイナスかもしれない。

講師は「タメになる話」をしに来ている。だからタメになったのは当たり前。ポイントを上げるなら、どこがどう「タメ」になったかを語る必要がある。講師はいみじくも述べられた。「言葉使い、話し方は普段からの準備が大切」と。

景気は上向きと伝えられたりするが、就職戦線は依然厳しい。「YUのここまできちんと目を通した人は見込みがあるかも。」などと考えた。そして本就職特集号が読者諸氏の「タメ」になっただろうかとも考えた。そうであれば幸いである。

(杉山 緑)

◎山口大学ホームページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報第七十三号

平成十六年十一月三十日発行

編集発行 山口大学広報戦略委員会

(総務部総務課)

住所：山口市大字吉田一六七七一

電話：(083) 933-5007

FAX：(083) 933-5013

E-mail：SHO11@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

印刷：有限会社三共印刷

広報戦略委員会委員

大坂 英雄 (企画広報担当副学長)

小谷 典子 (人文学部 広報担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

杉山 緑 (教育学部)

藤井 大司郎 (経済学部)

君波 和雄 (理学部)

武藤 正彦 (医学部)

溝田 忠人 (工学部)

山田 守 (農学部)

長畑 実 (大学教育機構)

瀧本 浩一 (産学公連携・創業支援機構)

糸長 雅弘 (学術情報機構)

杉井 学 (学術情報機構)

國守 勝巳 (事務局)

仁科 幸雄 (事務局)